松屋外集

二

835
26
4

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　　ガラス使用

松屋外集巻之二

目録

第一　松ほと杜若
ひぎとなしもきれよろしも　肩衣
第二　志らさ雪
小雪
第三　よろこぶ雪
慶雪　喜雪
第四　あのこ雪
第五　みづまさ雪

大正
9.8.26
謄寫

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

墨雲　魚鱗雲

第六鵲の鏡

第七梁塵

第八白木綿　幣木綿　四手カタソギ

木綿　麻　榜　荒妙　和妙　玉串

千木　氷木

第九強盗熊坂長範

第十郢曲一節切尺八中啓

第十一涅房遺書考

第十二谷荒木田久守南朝系圖

津嶋天王社

第十三宰相大將

參議　非參議

も孫ゆき

第十四いとちどり

以ちみ　いとみあき　ほゝはゝきをゝ

も洲の濱　名草濱　千鳥

第十五哆嚫摩知

尓の為れ乎　与の為れ乎

大坂山口　こてんも　當麻

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4

ガラス使用

第十六さいで
　志まく入る
第十七らうそう
第十八荅屋代弘賢之問
　おはあくき　おろあくきの里　おはあくきの社
　大荒木の駒　駮ま　みてゑ　みてづけ
　志ばゑ　ととそう　けこのみとまり
第十九荅磐瀬醒之問
　昆袋　皮足袋（カハノビ）　木綿（モノ）昆袋　絹（キヌ）昆袋
　金扨（キンヤウ）の誓言（ウイゴン）　馬鹿者（モノ）　天守　繪馬

六十六部田國の經聖　本かと荅ル猿
第二十荅椿仲輔問
　比満（ヒマ）沙伎（サギ）理（リノ）簗（ヤナ）　都婆婆（ツバハ）
　山都婆婆（ヤマツバハ）　小都婆婆（コツバハ）　茅呂須伎（トロスキ）
下総豊田郡
第廿一くづよあぐ杉ら魚
第廿二歌道比養子
第廿三つくり丘
第廿四野井
第廿五哉の字

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

第廿六壽の假名
第廿七等身の佛
第廿八更級日記
第廿九雞頭花
矮鷄冠 雞冠菜
第三十いくさ

松屋外集巻之二

武藏多西 平小山田與清稿
越後高關 平渋谷永保 訂

第一 れほろを衣

○古語拾遺に仍就二於倭笠縫一邑立二磯城神籬一奉遷二天照大神及草薙劒一令皇女豊鍬入姫命奉齋焉其遷祭之夕宮人皆奉終夜宴樂歌曰美夜比登能岐能與呂志毛於保与保與須我良尓伊佐登保志由岐乃与乃於保与保與須我良尓自注今俗歌曰美夜比止乃於保与保與須我良尓与呂志毛於保志由伎乃与乃志毛於保与曽

許呂茂詞之轉也按ま美夜比止乃ハ宮人之也於保与須我良尓ハ大夜過乍也大ハ宴樂の夜の盛事をほめて大夜といふ豊樂乃豊にれ那し伊佐登保志ハ幸通し幸を伊佐とのミいふか伊豫乃伊佐庭あとの例ひとおなあり通ハ徹夜の意にて夜一夜夜ふけし徹すし俗ニ夜通し立通し起とおなしあといふもたあし万葉集十の巻ニ居明しと雪ハ飯んとよ文歌もまた徹夜乃義し由伎能与呂志母ハ行の宜母にて母ハ助辞し行ハ常夜行来経行那とおなしの行におかゝて

時刻の移り往いか神樂歌に鶏ハ鳴とも歌遊てゆうんかとゐつる行もれあし宮人ら大殊夜ま幸起居て宴樂し時刻乃移行らおもしろくよろしきとあり此哥の解を神樂哥の注古語拾遺ぬ注あとにおゐつゐふかめてまゝ死考ともにて取用ゐに足又俗歌とゐつる方の於保与曽許呂茂ハ大装衣比佐止保志ハ膝通にて褌著衣ハ膝乃下に着いと長けまふありと賀茂翁のいもれし説よろし由牧乃与呂志茂ハその衣を着て行貌のよろしきを由を誤とゝ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

神楽の支乃与呂之毛与と改たるふ据て着の宜きなりと賀茂翁いもれさせと古語拾遺比諸本いつまも由の字ありれい舊は従ひて妄に改むへからん神楽寄れ方にそくよし大九衣雪乃宜も那とりふ説いりとうみかたし夫木抄冬部に天仁二年十一月家歌合神楽藤原盛仲宮人ふ神のいさもるうをてさにおれそ衣ぬきそえたるふ此歌の心は神の禁制もる慨さに大装衣をぬきみそとりひて肩を脱乱舞貌を神の禁もてなきかましきとさせてふ

移も心の乱たるにより宮人ふ棄人もし千五百番歌合嘉陽門院越前ふ哥ふ枕とるとよ宮人の非ありそひともよ定り神のいさもるれさふ神の制止ふらをかしきとし伊勢物語ふ恋しくふきそもみよりしちまやふる神のいさむふをおそふにとりみとうらうへ肩ぬきそみそ彩ふは舞人のも肩を脱たるしをふて五節乃肩脱なとりふ夫木抄冬三ふ三嶋社ふまりける神楽をまとりふ宮人権僧正公朝臣のうつに雪をかまねる宮人のねる

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

よそ衣さえたちしほ（コロモ）
衣の袖をよさのうましこさて宮人振とうふ名
もゆゝ古事記、允恭北段もも見えたり
第二ゝさ雲
○夫木抄-雑-よ或抄古哥ゝさくもまこんん
笑のもらふこきりつゝさるしらさ雪月もゆる
ふもゆゝけ降ゝし社ゝさ雲とのゝをさゝ見
えん此ゝ北心ふゝれ白小雲（シラサクモ）の心ゝ和月の称
ちきれゝるしら雪のたゝ月ももりてま
かをすつけもいかや〳〵消（キエ）ようとよ見ゆゝし

小を佐（サ）とうふは三樹考ゝ此ゝ例を挙たるを閑て知
つゝ小雲の字も詩、蒼字蔚字ゝ小雲ゝ大雨ゝ不能為大雨ゝと見ゆ
第三ゝさ雲
○千五百番歌合に土御門内大臣ゝ人のあゝ
のゝかゝ居ゝ代ゝ小雲ふよゝ詠ゝかもゝ居ゝけり
り此ゝ夫木抄-雑-ゝ載ゝ里按ふよゝ小雲ゝ
慶雲ゝ卿雲景雲ゝ相通（アヒカヨ）もゝゝ書ゝり續日本
紀三巻の類聚國史百六十五の巻ゝ瑞ゝ条に慶雲、状若（テ）烟（ケフリ）、非（ス）烟若雲非雲ゝ注（シル）され

たり史記天官書に若煙非煙若雲非雲郁々紛々蕭索綸囷是謂卿雲と見えたり喜氣也注ふ正義曰卿音慶云々漢書天文志の註亦れもし同書礼樂志に甘露降慶雲出云々晋書天文志中ノ瑞氣一曰慶雲若煙非烟若雲非雲郁々紛々蕭索輪囷是謂慶雲亦曰景雲此喜氣大平之應云々などもあり源氏藤裏葉の巻も河海抄晴花抄提要目安湖月抄如奄説あるに紫雲を慶雲ありともいひ韻府ノ歐陽詹徳勝序を引て騰歡心揚喜雲と見えたる喜雲もよろこぶ心と訓つし藝文類聚一の

雲ノ条ノ孫氏瑞應圖ニ曰景雲太平之應也一ニ曰非氣非煙五色紛縕謂之慶雲と云々同書九十八の巻祥瑞部慶雲乃条ノ上を挙て紛縕を氛氳に作る又景雲卿雲打どの故事をも載す武備志百六十一の巻占度載占雲氣の篇ノ瑞氣三一ニ曰慶雲若烟非烟如雲非雲郁々紛々蕭索輪囷是謂慶雲亦曰景氣此喜氣也大平應云々管窺輯要五十六の巻瑞氣乃条ノ一ニ曰慶雲一ニ曰軽雲若烟非烟若雲非雲郁々紛々蕭索輪囷是曰慶雲一ニ曰景雲此喜氣也大平之應一ニ曰昌光赤如龍狀聖人起而受命則見云々あるも是

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

由此外豈不ゝと云あし

第四ゐのこ雲

○夫木抄（雑一）源仲正、家集ゐのこ雲の歌よみ雲もてる月光もおぼろなりもりもりけりゐのこ雲

ゐのこ鶴林玉露（十五の巻）范石湖古雨詩に飛雲走群羊傳雲浴三騅云々武備志（百六十一の巻古雲氣一）の氣之戰陣の条に軍行有白雲如猪来臨者大驚宜備之云ゝ百六十二の氣之軍敗の条も軍上氣中有黒雲如羊形或如猪形着髦解之云ゝ軍上氣如群羊群猪在氣中此衰氣擊之必勝云ゝ

管窺輯要（五十三の巻）雲氣不祥占に白雲如猪所當軍夜須警備軍驚之兆云ゝ（五十四の巻）将軍氣乃条も或如群猪在霧氣中皆衰氣也云ゝ（五十五の巻）如群猪在氣中為敗軍云々晋書（天文志中）も黒氣如群猪在於氣中為敗軍云々晋書（天文志中）も黒氣如壊山墜軍上着名曰營頭氣或如群羊群猪在氣中此衰氣也云ゝ（漫）からくにゝも猪雲乃名ありし形なるべし

第五みのまさ雲

○慈鎮和尚の拾玉集（四の巻）の百首歌の中に

如水まさ雲をもる月を空にのみ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

ん此寺夫木抄雑一にもみまさ雲と題して好
り字本まゝ水まさ雲ともありと藻汐草ともも
注ほさ雲とありても多本に従てしおい水増雲の
義ありつゝし為尸千首に夕立早過ル方の水まさ
雲のもやうにて源しくくふみうの月かけ一本
にもみまさ雲とも有り周礼(巻六の巻宗伯礼官之職)保章氏
以テ五雲之物(ヲ)辨(ス)吉凶水旱降農流之侵象(ヲ)云々注ニ
鄭司農云雲色黒為(ル)水云々外菴外集(巻二の)望氣経(天文志中)
の条ニ黒雲多(ク)水云々晋書ニ雲甚(ダ)渕(テ)而厚大
雨必暴(ン)至四始之日有(テ)黒雲氣(ノ)如(キ)陣厚大重(ク)者多雨

云々古徴書(巻十の)春秋感精符ニ冬至日見(テ)黒雲有(リ)
水云々武備志(百六十一の巻占雲氣一)
營有(テ)黒雲如(キ)鳴鶏(ノ)扶(ケ)与營門相對(ヒ)渥(ク)移(ス)營高阜(ニ)天必
大雨(リ)河水泛漲(ス)防(ケ)有(ン)沈溺之患云々管窺輯要(巻十六の巻壁宿)
雲氣千犯古に黒氣入(レ)壁(ニ)有(リ)破國也一曰有(リ)大水云
云あと見え同書(五十四の巻)風雨乃条萬用正宗(巻三の)
天文門なとにも黒雲必雨(ふ)ましけること(ヲ)水増
雲(ミツマサ)とつゝめし本間游清日豊前小倉の藩士秋山
光慶(ミツヨシ)ら(ノ)ことの大江戸(ニ)て鰯(イワシ)雲といひて魚
鱗の形せる雲(ノ)ことゝ水まさ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

○の話をもて考ふるに水雲を雷といへる名も世もかゝるにもとゝそゝりて怪侯後考を俟つ雅南子覧冥訓水雲與鱗とあるもうべなるかな

第六鵲の鏡

○夫木抄 三夏 文永十年毎月一首中民部卿為家卿家集月歌中為家卿

さゝきなく後の山の玄元身さし出るより

くもゝん同書 秋四

ひうけさそ鵲のかゝとみるまでの秋のよ月同書 雑二 渉集慈鎮和尚

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4

ガラス使用

左の月さし初めてもろかけも
新拾遺秋下にも家十五首哥よ月前大納言為家と
て載られも慈鎮和尚の哥と世ゝ
八月の異名し唐李嶠ら月詩よ桂生ス三五夕賞開ノ
二八時分輝度鵲鏡流彩入蛾眉云ゝ王維ら清如ル
玉壺水詩よ暁凌飛鵲鏡宵映ス聚螢書云ゝ李白カ詩
に明ラケン金鵲鏡了ゝ玉臺前云ゝ王勃カ上ル皇甫常伯ニ
啓に鸞鑑就路驚駿相懸鵲鏡臨テ春ニ研媸自遠レ云ゝ
あと又えらえて知らし

第七梁塵

○次郎百首笛藤原仲實ノ吹たる笛の
ありきみもれとものきちりもなし
多夫木抄雑十四笛部にも載とり
なりしふなれとかひらたるを
うふにぬるゆゝそのちりもあり
なゝよものぬとりふあるを云ゝ列子湯問篇よ薛
譚學謳於秦青未窮青之技自謂盡之遂辭歸秦青モ
弗止餞於郊衢撫節悲歌聲振林木響遏行雲薛譚
乃謝求反終身不敢言歸秦青顧謂其友曰昔韓娥
東之齊匱糧過雍門鬻歌假食既去而餘音遶梁欐

三日不絶左右以其人弗去過旅舎人辱之韓
娥因曼聲哀哭一里老幼悲愁垂涕相對三日不食
遽而追之娥還復為曼聲長歌一里老幼喜躍抃舞
弗能自禁忘向之悲也乃厚賂發之故雍門之人至
今善歌哭效娥之遺聲云々此説博物志(八の巻)の史補
篇にも出て餘音遠梁櫩三日不絶の櫩字あし梁
櫩かうはもり心劉子清神篇注よ韓娥善歌欲入
齊唱歌行至雍門値雨雪粮盡欲歌乞食雍門人不
識以仗撃之韓娥遂悲哭聲皆悲泣
○三日為之不食有智者謂娥曰子既善歌可停哭而
歌韓娥即唱歌其歌清暢可動梁塵雍門人聞之又
三日忘其食也云々藝文類聚(四十四樂部四)(四十三歌部三)劉向
別録曰有饗人歌賦漢興以来善雅歌者魯人虞公
發声清哀蓋動梁塵云々同(四十四の巻樂部四)筆部梁簡文
帝筆賦小便長廊之瓦塵墜梁上之塵涙衣云々杜
氏通典(百四十五の巻樂五)歌力条に有漢虞公善歌令梁上
塵起云々あと見えし梁塵も共に餘音遠梁櫩よ
起ると語し本朝乃古書よ梁塵秘抄梁塵秘抄口
傳集梁塵愚按抄と名けし古文ふむなく韓城乃
之塵と書るものをおこれを據とれ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

第八白木綿幣木綿四手カタソギ

○木綿ハ穀木ノ皮ヲ剥テ晒レタルヲ云穀木ハ紙ニスノカウゾト云ヒ梶葉ノ欤ナドモ此木ノ葉ノ形ヲ取レル也其色白キユヘ白木綿ト云此レヲ布ニ織ハ最柔ナルユヘ柔妙ト云ニキハ柔ナル木綿モテ織タル柔布トモ奉リ又白木綿ノマヽニテモ奉ル也ヌサトヽモコタヘハ約テトモイフサイデナト云モ裂布ニテ細ニ裂タル布ヒキヲライト云ハ音便也然レバニギテト云ハ柔妙ノ約談白ニギテト云ハ白木綿モテ織タル柔布トモ云ヒ此レヲ神衣ノ料ニ奉リ又白木綿ノマヽニテモ奉ル也ヌサトヽモ此ノ妙ヲ細ニ切テ神ニ奉ルハ衣ヲ手向ル義ニトレル也ヌサハ禱麻ヒ子ギヲ約テヌトヽヒフサヲ省テサト云古語拾遺ニ麻謂之總ト見ユ神ニ請禱トテ奉ル麻ノ心ヒ其衣ハ木綿ニテモ麻ニテモ織レバ通ハシテイヘル也又青和手トハ麻ハ木綿ヨリモ色劣リテ青ケレバ麻モテ織タル柔布ヲ云ヒ柔妙ニムカヘテ荒妙トヽハ荒ク織タル布ヒユフト云名ハ物ヲ結モノナレバ也又タクト云ヒハ手繰義ヒ麻ニモ木綿ニモ渉リタル總名ヒ後世ハタヾルト濁テ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　　ガラス使用

イヘド古ハ清テタクルトキヽル也

○幣ハ滿座ニテ座上ニ充滿セシメテ奉ル義欤又ハ手ニ持テ座ニ備ル義ニテ御手座物欤又ハ手向座ニテ御手向座物ノ義欤トマレカクマレ座上ニ滿備ヘテ奉ル物ヽ座トハスベテ物ヲ置ク処ヲ云ヒ倉モ物ヲ置ク家ヽ馬ノ鞍ハ人ヲ乘セオク処ヽ位ハ人ノ就テ居ル処ヽサレバミテグラノクラハ物ヲ滿テ置ク処ニテ臺ナドヲ云ベシ後ニ幣束ヲミテグラト云ハ上古榊ニ木綿ヤ玉ヤ鏡ヤクサ〴〵ノ物ヲ付テ手向種ニセシヲマヽ手ニ紙ニテ作リ轉リテハ金銀幣ナド云ヒモ出來タル也太王串ト云ハ太ハホメタヽヘヲツケタル串欤又ハ手向種手向串欤此レモ臺ニ充テ奉ル由ニテミテグラトハ云ルヽ

○木綿四手ハ木綿ハ前ニイヘル如ク穀木ノ皮ヲ剥テ晒シタルニテ今ノ苧ヨリモ色白キ物ヽ四手ハ下曳シヅタレノツヲ有キタレヲ約テテト云シダリ柳シダリ尾ナドノシダリモ下曳ヽ下ヲレシヅト云ハ下枝下情ナドノ例多シ又有テシトノミ云ハ高倉下ヲタカクテジト云類也上古榊

ニ木綿玉鏡ナド付テ幣ニセシヨリ神ニ木綿付
タル榊ヲ太玉串トテ奉リ後ニハ木綿ヲ紙ニカ
ヘテ榊ニ付ケ或ハ榊ナラヌ竹ナドニ狹テ木綿
四手トモ幣束トモ云フトナリヌ又左縄ナドニ
付ル紙モ木綿ヨリ思ヒヨリタルニテ木綿下垂ノ
義ナリ

○カタヅキハ宮社ノ屋根ノ千木ノ片方殺タルヲ
云フ千木亦ハ氷木トモ云ヘリ肱ノ如ク組合セタル
木ナレバ肱木ナルヲ上ヲ省テハ千木下ヲ省テ
ハ氷木トモ云フ心カヤ葺ノ屋根ノ押ヘニ前後ノ軒
ノ端ヨリ頂上マデ木ヲ二本ヤリテガヘタル末
ノ長ク出タルサマヲ千木高領ナド云フモ千木高
ク顯レタル家ニソコヲ領シ住義シ片ソギノ行
合メト歌ニヨメルモ木ヲヤリ違ヘシ上ノ前後
ヨリ行合フ処ヲ云フ又風雅集ニ度會朝棟カタソギ
ノ千木ハ内外ニカハレドモチカヒハ同ジ伊勢
ノ神風トヨメルハ内宮ニハ内ヲソギ外宮ニハ
外ヲソグト云フ後ノ定メアルニ据レル也

以上略考四箇條所荅平戸城主松浦源澈朝臣之
問也

第九強盗熊坂長範

○強盗熊坂長範（カウタウクマサカチヤウハン）といふもの美濃國赤坂の宿（スク）
に住（すみ）し牛若丸を討（うた）んとて烏帽子折（えぼしおり）謡曲（ウタヒ）あるにより
謡曲（ウタヒ）あるとにはあらねども仕（つかまつ）りお任（まか）あれむ信（ウケ）
用（ヒヤウ）べくもあらざれば世々（よよ）の義経記（ぎけいき）を陸奥（みちのく）の金商（こがねあきな）吉次（きちじ）
牛若をぐしてくだりけるにくだ
るる熊強盗（こわごう）仙道（せんだう）の大内（だいり）出羽國（でわのくに）人由利太郎（ゆりたらう）越後（えちご）
國頸城郡（くびきごほり）人藤澤入道信濃人（ふじさわにふだうしなのびと）さんの権頭（ごんのかみ）の子息
さんのお郎八代（ろうはちだい）のごん守（もり）遠江國（とほたふみのくに）人蒲（かんば）与一駿河
人奥津十郎（おきつじふらう）上野人（こうづけびと）とよ源八（げんぱち）あど相討（あひうち）てし

おくられ中（なか）ほども茫（ぼう）々（ぼう）と大（おほ）き刀（かたな）まで戦（たたかひ）しが遂（つひ）に牛若（うしわか）に討（うた）れしよりこれを春（はる）の烏帽子折（えぼしおり）
草子（さうし）と美濃國青墓宿（みのくにあをはかしゅく）とて熊坂（くまさか）
いふもの〳〵強討（ごうとう）せしよしふ引（ひき）事（ごと）にて作（つく）りかんと
討謡曲（うたひ）ハそれよりてみ作（つく）りかもしされど熊坂長範（くまさかちやうはん）が義経記（ぎけいき）の名（な）
る伝雑々拾遺（でんざつ〳〵しふゐ）と賀州（がしう）熊坂（くまさか）左衛門（さゑもん）
弟氏（おとうじ）あり武勇（ぶゆう）たくましうして
とありをし江（え）の古境（ふるさかひ）みに美濃（みの）へ立（たち）こえ住（すみ）来（き）の
旅人（たびびと）をもぎとり世（よ）を渡（わた）りしいもの

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

じき妄説し謡曲拾葉抄の異本義経とてあるもの
拾月て熊坂法樊とてお嗤(ヌスヒト)い加賀國熊坂人ある
が実説も未拾宿とて粗討(アラウチ)し牛若丸よし記せるもいとうけ
ざるべし又張良の張の字
と樊噲の樊の字をとりちがへ智勇を表(ヘウ)したる名と
いつるもあやまりなり折草(オリクサ)などまでかの
ちゃうけんおやこ六人とも見えず七歳のとしは
じめて駒を盗(ヌス)みそめたりとて強盗大将軍(ダイシャウグン)とあり
五人の子どもも名(オノ)〳〵ありけんおとしはあるべき
也(ナリ)横行(わうかう)せしよしあるどは何をたよりをも六十ぢかりの翁(オキナ)

ありけんおとしはあるべき
十三といへるもさもとおもはれず年齢形粧(ナリ)などハ夢裡(ムリ)記の藤沼入道(フヂヌマ)が
烏帽子(えぼし)折草(おりくさ)など烏帽子折(えぼしおり)謡曲(うたひ)熊坂謡曲(うたひ)あどを考て
押量(おしはかり)でし〇又按陸奥人熊坂邨子孫が文章緒論
に熊坂四郎が事を記しるし信州の名族とし
保元の役より左馬頭義朝に従て白川殿を攻奉(たてまつ)
しものとて又平氏の粟(アハ)を食(は)を馳(ハセ)て剽掠(ひやうりやく)を業(わざ)と
せし狡伯夷叔齊(セウ)が節(セツ)より比しなどいとあり
て已(オノレ)が先祖とし名(な)を顕(あらは)さんとやうさんなの文

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

飾し家系譜牒を私の説を主張せるも何ぞ従
ひ用ひざるをもて女(ムスメ)ぞうそりとつふ事もいつぐ行ふ人
摸國愛甲郡も鉢坂村あり又平家物語七の巻
北國下向の条に倶利伽羅山の焼ある鉢坂山に
陣をとるとあり又異記に此外巻々合戦
の条国卅の処平氏侍屯(タムロ)ぬ鉢坂とあれ
も同處とさゝやかなる山の隈(クマ)の坂の事にて
そをも起(オコ)る名あるをすべて地名に
うべくそこふ住(スム)る人鉢坂を称号とせしもあ

まるあるべけれど鉢坂氏必、其範が子孫といふ
もいまだ也爲帽子折(オリ)草ま拠(ヨリ)所ぶ父子六人
こもごも討死をもてなぞ陳ありしとぞいへんさる
さる歟し又義経を従て白河殿を攻奉し鉢坂
四郎を名乗(ナノリ)も侍るをもてなぞ其範が事歟
しされど全(マタウ)国吉次をおひ如何(イカヾ)
生捕(トリ)作(ツク)りて義経入(イレ)ぶ名あるを義経
武爲帽子折(オリ)を考安せ(ウルセ)おごし其範が事歟
實録るをそこそ足(タラ)ざる説(トキ)を打(ウチ)出(イダ)して
凡(オヨソ)いうをも擬奉朝通鑑六十二の巻をも倍

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

説ニ義経殺ス強盗熊坂長範及其徒数人ヲ於赤坂ニ蓋シ由利藤澤之事相謬傳者乎ト云リ緒論ハ邦乘ヲ閲シ野史氏ヲ考フト云フ俗書ヨリ已ガ開推ノ説ヲ以テ古書ヲ云フ那ヲ出シ而シテ文辞ノ少シヲ崇ビテ皇國ノ事實ヲ疎ニスルモノヲ也羅列入之ヲ證坂長範ト既ニ當時藤澤氏ヨリ云ヒ而シテ年若皇南吉咲未春ヨリ其ノ引ケサヤキヲ以テ東國ヨリ平治物語三ノ巻盛衰記四十六ノ巻同劔ノ巻ヲ取ヲ鏡ト云フ

宿ヲ強盗ヲ討シ事ヲ義経記ヲ出處トス本朝事蹟考ヨ青野原トイフ説ヲ引カヽルヨシ右強盗熊坂長範考所答平戸侯隱居松浦靜山君之問一也

第十郢曲一節切尺八中啓

郢曲トハ催馬樂今様朗詠ヲモ郢曲ト云フ一ノ唫物アルニ付テ徒然草野槌ニ法師ヲ今世朗詠ヲウタフヲノミ郢曲ト心得タルハ非也ト朗詠ノ曲今様ノ曲神樂催馬樂風俗ノ曲ノ類皆律ノ声調各別ナル

笏などや今の世の猿樂謡と長唄と相違ふ
ありさまなどし必竟ハ朗詠の曲まて新作の詞
をうつし作略をも加へて今様といひつるやや
白拍子といふハ拍子とる名まて也門平家物
語ハ白拍子をかぞへたるもしありどもありけん今様
の毎ニ一節切を用ふるハ古書ニもをさ〳〵見あた
らねど一節切を洞簫尺八の同属まてなしつ
れバ勿論かつたるも一節切の長一尺八分あるも尺
八の名ハ叶ひそう白拍子の作者信西入道が後
白川院ニ奏ありし保元三年内宴を再興せる

り尺八をも作りて用ひ出て流世謡内宴
の巻ニ見えたるをもて寛永以後三
弦ありてふく一節切ハ宗佐高瀬あどまり
大森宗勲ハ傳ハり宗勲その製作をも吹様をも
醍醐せしありどし宗勲ハ和泉堺人まて紫の一
本ニ宗勲が切ると葛の葉風といふ銘の一節切
ありそハ紙鳶(下巻元禄十二年刊)倭漢三才圖會(八十
の巻樂律器類部)類聚名物考(樂律部五)雅遊漫録(五の巻)あど考て
あるる尺八ニ和名抄(音樂源氏物語末摘花)あとに
出ざるものゆゑ保元の比ハ

再興しもしまた舞扇を襟
あるつけもで古画あどの證今とゝも又なが
し中啓いつもくの蝙蝠扇まて源氏紅葉賀ふ
源内侍が靴をおしめしてこと又由来廣といふり
こともし今の俗用の扇ハ檜扇の形ち厚紙を折竹
骨を用て製ものまて實の蝙蝠まそあらん出家
の一束一本とも束本ともいひて厚紙一束十帖
中啓一本を墓ち積て礼式ノ進物ニもちも蝙蝠
ゝゝも古代より男女出家すゝ用ゐしおし
右所ゝ着平戸隠居静山老侯之説也

第十一経房遺書考

○文政元年摂州能勢郡野間庄野村民勘兵衛修理
其居宅ヲ梁上得古文一巻同州池田里人山川正
宣俗称大和屋三郎喜而謄写之記其所由於巻尾云此建
保中左少辨藤経房朝臣遺書無疑也迺別写一通
以一通納於能勢陣屋之帑蔵以一通納於出野若
宮八幡祠中将傳於不窮云

○あらましをきうとゝもて十とせまりあまり
発翁(真淵)の文体まねびつゝて建保の社の体よ
あらんを

○麿（マロ）とあるも建保の比を先として近世の古学者麿（マロ）麻呂（マロマロ）満（マロ）など好（コノミ）て書（カ）ことあり

○大輔判官とつづる名目もとぶらひ大夫判官をかくおもひ誤（アヤマ）るもあるべし

右位しるる廷尉の嘉号あるうへ官名もいりまぢや

○御幸ハ院ゟうへ例ゟて西宮記北山抄あどより後ハ必（カナラ）ス主上ゟ行幸院ゟ御幸と書（カ）ともこゝもユキとゐイデマシとゐ訓（ヨム）へくわしくみぐりよ

ゟうゟうあり建保の世ゟ人ゟ誤（アヤマ）をこゝもあり

○典侍ゟれゐゟナイシノスケの事ぞ俗ゟスケノナイシといふゟう典の字をスケゟ當（アテ）てみぐりまたゟし典侍を音（オン）ゟ清（スミ）てナイシノスケと訓（ヨム）例し

○舟をありそまつけるあどいつるありそも荒磯（アライソ）も約語ゟて筆意ゟおなう是ゟとゐ岸とゐひゞ中むゟしのくちつきある歟

○おもぶもてふおもそぶもてふ詞ゟりさか

しらよ思のまうけしし

○おとゆふをとつひの夕を着(ハゲ)て古言らしくも
あれどもまだしもぐと古言ハ
そそりらぶ(ひ)ぶりげともきゆ
む(ま)ぐるつうありといつる
ひもゝ(も)ていとおもしろ

○市女が笠ともゝ(も)のゝ似(ま)ると云(い)てゝ
詞ハ外(と)を見(ま)ふ詞(と)ふと云(い)ふを欸(ア)冠(ハ)
ハ切(ツヅ)てよふとよみ万葉(ま)もあ
まり古(ふ)ル祁楽(ぎ)等の詞書(と)ま
て外の書(と)ふをさ〳〵見(ま)ぬさう
のそもすれハ行(ゆ)てふ〳〵と書(と)
てのそぎし建保の比(ま)ま
○主上を八宮とまうし安徳天皇也
とあるも少(ま)ゝ祭りなる
八幡を申(ま)ハあらげにせんと
あらせいやまひ祭里といふ
作り物(も)る詞し

○種(ね)ハ君の美(み)見(ま)ル所つゝ
栓現とあるを見(ま)りとそ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

こは上の矢おき十月廿七日まで
○あれし山々のいとものつゝしみ
春ありて初雪なめてたし
○峯かきよめる仙洞も打うち
足山あらしもくもりなく峰とも
おもも里あるまで権現と
○ありげなる人ともまうけ祝あり
○従四位上侍従行左少辨藤原経房朝臣
不審あり従四位上行左少辨侍従兼尓
と打うづきをとりそへ贓物返附の位署

式を見てもあるにさる事もたゞ
外にあるべき又公卿補任辨官補任あど考へて
経房卿の御徳治多年あるべき朝よ仕つゝ治第四年
よ左中辨四位下寿永三年よ左大弁春宮大夫
九月よ権中納言よ正二位大納言よ進さる
人も従四位上行左少弁と
賀し
○假名遣手尓乎波のみもりある山川の宣が説
まもうけひきたるよしなき事ども
人皆田舎よさまでひて上氏まもる下り年さく

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

おぼえその甚あれバとそ見ゆるもしも主づしさ
ほど甚だ時代を不定波を云〻加里〻我加〻誤歟
○くもあく〻を世夢童家といへるもの如きを
つきあるもうけがたき能也古学の万葉法の説也を実ふ
千古真蹟のおもあれど尼田家ふ歟著和名鈔
長あとの著書をよく〻考へ〻世をさとるにいたら
酒まのこあるゆき道理をさとるにいたら
ともせんすべなしける院元年ゆふうの村雲名
ぞめ〻ゑえせおとあのでむ〻世をあざむかんと
ハをものるそを木曽義仲が如きおの自うまとあも

つる田舎料理を猫間黄門(レヒ)強すめ〻ゑひと
〻鶯鳩が大鵬をとらんとするがごとくあとや
○山川西宣ぬ〻ぐ〻考へんじて裏をせるふいうよ
ぞや西宣を幸居宣長が門徒のよしきう元仏足
石碑の解をも著しあれむ〻ゑえせものふま
ど山ねこ〻もあ〻じをあるまゆあうをむ和
りてうあがひ加〻ん〻ん〻の如まあるを
ず不知〻ゑ志ゑむ〻ん〻ん〻ゑ歌のかぎうと
りあ〻じそも〻北隆房のまを偽作せるよ〻を
かの註釈のとゝうみ如ま田舎学者ありてその

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　　ガラス使用

里の叢祠をうかゞひみしに家ありと
なせよりあるさがやとおもふ已脱カ
しさるふ深田深田が大系圖を偽作し強河志を
波多の社官が類聚國史の寫をまことが仕る社を
鴨社のよし力へて世を欺キ玄類と眞眼の学者
一般せばかりよほくうかふふともおもふそのも
偽を見あらはしつゝき終管見圓陋の心より猶
丸ゴ管ヲ監折てモノ耳ミヽを塞ソクぎさすあらぞ
をかしきや

第十二箋荒木田久守南朝系圖

◎尾藩儒官秦氏及ヒ津島大宮司氷室氏あぢより尋
問とゝその問書の文をもて注岡の案左の内容
中の

○南朝紹運録ハ天野信景が手より出れるものて
古本を以て増訂せし書ありよく治ふ大和人物名業
高塚補して一書とゝんを番〳〵といつぐも西来ま
だ考ふべきあり未だあらん

○宗良親王ノ御子尹良親王及ヒ孫の良王乃事
ハ浪合記の外右見那し新葉集本文和集住滝宮傳
あぢより見えて北朝よりそれ始ひ年歴て後永

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

和三年九月卒て葬じ法名を興長親主と申て母も物狂ひ
也興長のさし次の男子
川村敦貞が女ともみは井伊掃部頭直孝の家臣井伊伊豆守が女ともいつり尹良をユキヨシと訓ハ尹良親王の廣韻を進也と
混したれバユキとよみ拾芥抄宗二が節用集新撰雑集以呂波字類抄などに太ゞと訓てユキと訓ることや良ハ右の書
あれ太ゞと訓んうと志ともに与之とよみ拾芥抄を羅ともよみたれ

ど後醍醐天皇の御子の御名の仮名も出たるも
のゝみ也よしと有ども
すべくおぼつかなし浪合記も
む彼ら増訂あるとも
○日本史菊地武光が伝を菊地武朝申状を引て将
軍宮とあるされハ征西将軍宮懐良の御子良
宗にて母ハ武光が妹也
降系の後人居を列し後醍院越後守良宗と名の
上九州を漂泊して死去のよし後醍院系累を見
ゆ懐良ハ後醍醐天皇第十四の御子にて後村上

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

院のさし汲乃伊勢也明史名山苑那どもゝ良懐
生行り

○天野信景塩尾一の巻ゟ尾張津嶋牛頭天王祠社
傳欽明天王元年鎮座云〻（不見日本紀又牛頭改天王名此時未有）
暦雑事記聖武帝天平五年吉備朝臣播磨逢牛
頭天王廣峯社記及峯相記同之按續日本紀無此
説吉備津嶋社記（日本後紀類聚国史等無建牛頭天王事当時疫多清和帝貞観十一年以津
嶋天王勸請山城國祇園社三代實録無此説二十
二社註式及改暦雑事記峯相記廣峯古證文皆以
播州飾磨郡廣峯牛頭天王為京師祇園本祠九國
史無牛頭天王之事然則中世以後所祭欤東鑑見
尾州津島社名と見えそ定説なし

○倭訓栞ゟ津嶋牛頭天王の社ハ嵯峨天皇の御宇
祠を建されど祭神ハ未詳今按ニ尾張国神名式ニ
良親王の二男良新王ゟ起りとハ智證大師
の傳ゟも見えず且ハ曲乗之てと有ゟハ浪合記
ゟ依て書ゟる也尾良新王ハ尾良親王ゟ仮ゟべ
し智證大師の傳ゟ見えとハ津嶋社の
事ゟそ記主を指せゟゟゟ

皇の事三善清行朝臣の天台宗延暦寺座主円珍
傳今昔物語十一の十一語元亨釋書三の巻の傳
みどりをみえねど圓珍山王明神を祈りし效神
社考本朝孟鳴神のよしいつゝ起れる說あり
賀し津島の名ハ名寄のもの旨ハ敎夫木の中務の
みこのうた宗長手記名所方角抄などにも南
朝系圖我作りて所說と云
○南朝系圖 按、南朝之称始見于太平記十九巻青野原軍条云

人皇九十五代
○後醍醐天皇 後宇多院第二皇子母談天門院藤忠
子内大臣師経公養女宠參議忠継卿女也正應元十一二降誕御諱尊治文保三二
廿七践祚延元四八十六崩葬于吉野塔尾山
陵宝篋五十一本朝皇胤紹運録増鏡皇年
代畧記太平記

尊良親王 母冷泉為世卿女贈三位為子應長元誕
生一品中務卿延元三三六生害于越前
国金崎城御年廿一宮 紹運録増鏡太
平記

守永親王 一品上野太子蓋称二一品宮一或称二宇津
峯宮一及二西應寺宮一 新葉集元弘日記
結城古文書

良玄大僧正 母蓋従一位右大臣公顯公女御匣
殿二条関白良基公猶子入二室一條

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

院二十四世 門跡傳南朝紹運圖

女王 母大納言典侍 増鏡一本
南朝紹運圖ニ為女王二人

世良親王 母参議實俊卿女遊義門院一条上野太
守又太宰帥元徳二九十七薨称河端宮
紹運録増鏡常樂記

女王 紹運録

護良親王 母民部卿三位大納言師親卿女二品天
台座主兼梨本大塔両門跡故称大塔宮
元弘元還俗同三征夷大将軍建武二七廿三
為足利直義被害於鎌倉 紹運録太平記

陸良親王 一本紹運圖作常良母北畠准后親房
卿妹征夷大将軍正平十五年謀反自害

太平記寺院文書纂櫻雲記南朝紹運圖南方
記傳被石川忠総自記遊行十二代上人大塔
宮御子云々甲斐一蓮寺系圖遊行十二代尊
観上人亀山院御子常盤井殿第四子遊行十二
明云々常盤井殿一品式部卿恒
観云々此子石川記之説相承

女王 母竹原八郎女
太平記

宗良親王 母同尊良正和二誕生天台座主尊證延
元元還俗一品中務卿名宗良征東将軍
天授三落飾元中二八十薨于遠江国井伊谷
年七十三新葉集着称信濃宮或上野親王
新葉集太平記天台座主記信濃宮傳

興良親王 母狩野久負長女天授三九月薨于京
都 新葉集李花集信濃宮傳

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

尹良親王　母知久四郎左衛門敦貞女或云井伊
　仗道政女花信濃國生害浪合記
女王　一本南朝紹運図大橋三河守定省室
良王　母世良田政義女住于尾張津嶋
　大橋氏祖浪合記
良新　母同良王

信重　母大橋貞元女

靜尊法親王　母參議實俊卿女初諱惠尊又尊珍
　嘉暦三正晦親王宣下聖護院御入
　室紹運録釋家官班記

恒性法親王　大寛寺御入室元弘三十九花越中國
　為北條被害越中宮紹運録門跡
　傳太平記

滿良親王　母中納言京親卿女親子元弘三誕生稱
　花園宮後落飾号無文選禪師渡元歸朝
　之後歷中七閏三廿二花遠江國入寂年六十
　八無文元選禪師行狀元弘日記佐伯杏仙藏
　古文書

恒良親王　母新待賢門院正中元誕生建武元正廿
　三立坊延元ノ十月北国下降同三七十
　二為足利尊氏被鴆殺年十五
　錄增鏡　太平記紹運

成良親王　母同上正中二誕生建武元鎌倉下向号
　将軍亦上野宮同三七月為尊氏被鴆殺
　年十四　太平記紹運録

肴良親王

尊親法親王　又名果尊　母少納言内侍四条隆賢卿女　紹運録新葉集

法仁法親王　母従三位為道卿女　正中二誕生　初諱勲良　又有良仁和寺御入室　正平六二廿二叙二品一同七十廿五遷化　年廿八　紹運録　仁和寺御傳

人皇九十六代

後村上院　諱義良　母新待賢門院廉子　嘉暦三九月廿五日陸奥太守同三八十廿七　御即位正平廿三三十一崩御　年四十一　神皇正統記　太平記記　元弘三親王宣下　延元元御元服三十一崩御年四十一　神皇正統記　太平記記　元弘日記鳩嶺雑事記　花営三代記

懐良親王　母従三位為道卿女　延元中九州下向居于肥後国八代一元中中薨号二牧宮一或阿蘇宮鎮西宮高田宮九州宮征西将軍宮　太平記　紹運録　後醍院系図　按明史名山藏等諱作二良懐一

良懐

良宗　母菊池武光妹　正平十五誕生　後号二後醍院一　越後守一死二于九州一　後醍院系図

良忠　後醍院伊豆守其子孫仕二鳴津家一　後醍院系図

聖助法親王　母少納言内侍菅原在仲卿女　聖護院御入室　紹運録

玄圓法親王　母従二位守子後山本左大臣女一条　聖護院御入室　紹運録諸門跡譜

皇子　母中納言典侍親子宗親卿女　紹運録

皇子　母同二護良一　紹運録

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　　ガラス使用

皇子　母同法仁一阿蘇宮　紹運録

皇子　母昭訓門院近衛　紹運録

權子内親王　母後京極院為伊勢齋宮後光嚴院中宮其後称宣政門院入于保安寺落飾　紹運録増鏡女院小傳新葉集作者部類

准后　紹運録

祥子内親王　母新待賢門院元弘二為伊勢齋宮後入于保安寺落飾　前齋宮歷代皇記新葉集紹運録作者部類南朝　紹運図

妮子内親王　母同護良今林尼衆　紹運録

惟子内親王　一品異本紹運録作權子

欣子内親王　母新待賢門院今林尼衆　紹運録作者部類

皇女　母同世良今林尼衆

皇女　母遊義門院左兵衛督局為忠卿女　今林尼衆　紹運録

皇女　母同尊良　紹運録

皇女　紹運録

皇女　紹運録

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

皇女 母後宇多院權中納言女房
詔運録

皇女 母基時女
詔運録

皇女 母民部卿局閑白基嗣公室
後離別詔運録

皇女 母一品実子山階左大臣女
詔運録

皇女 母大納言局
詔運録

皇女 母坊門局
詔運録

皇女 母後宝町院
詔運録

皇女 母同二法仁一
詔運録

人皇九十七代

後亀山院 母嘉喜門院福恩寺関白女也諱熙成正

平廿三年三月御即位元中元年十月于北
朝御和睦之後住二于嵯峨大覺寺一應永元年十
二月太上天皇即日御落飾法諱覺理灌頂又金
剛心同卅一日十二崩于南宝筭寺未詳
漢合運吉野拾遺椿葉記詔運録和
皇年代畧記

長慶院 母同上諱寛成 称二玉川宮一花咲松

尊聖大僧正 日本史

惟成親王 母大藏卿局中務卿又式部卿又太宰帥
落飾之後号二梅薗一祐常 古本系圖新葉
集五百番歌合

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

泰成親王 母同後亀山院正平十五年誕生於住吉
太宰帥及式部卿後為後亀山院太子元
中ニ薨 新葉集 南朝紹運圖

世恭親王 母從二位教子

説成親王 母新待賢門院 冷泉上野太守号護性院
宮或五常院宮 南帝系圖 諸門跡譜

圓悟大僧正 母楠正儀女住于圓滿院
諸門跡譜

帥成親王 兵部卿出家号惠梵
新葉集 李花集奥書

良成王 鎮西宮 古系圖

憲子丹親王 一品宮
新葉集

皇子

小倉宮 御母中宮信子土御門右大臣顯信卿女也
住于嵯峨 椿葉記

教尊大僧正 諱茶仁後勸修寺御入室大僧正氣安
詳寺ト稱 椿葉記 諸門跡譜

尊義王 方壽寺宮空因還俗稱尊義王嘉吉三九廿
三乱入于北朝内裏奪神器後敗死 椿葉
記 櫻雲記 南方記傳

尊秀王 母色川左兵衛盛定女也一宮又称自天親
王長禄元於吉野山被害 上月記 南方記
傳 後崇光院御記

忠義王 二宮或称河野宮長禄元於吉野山被害
上月記 南方記傳

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

尊雅王　長禄二六月被害
　　七月記

○系統未詳之分

最惠法親王　南朝紹運圖後画画皇子母山本左
　　大臣女新葉集其名見一説玄圓法
　　親王御門人云〻

深勝法親王　亀山院御孫父常盤井式部卿恒明
　　模藤沢山遊行十二代上人系圖後村上院御猶子後住于相
　　集紹運録南朝紹運圖按甲斐一蓮寺遊行十
　　二代上人系圖常盤井恒明御子第一卿親王
　　全仁寿二品親王深勝第三画画寺座主二品親王
　　画寺座主一品親王子尊第四遊行十二代上
　　人尊観為後村上天皇之太子云〻

仁警法親王　深勝法親王之御弟東南院入室
　　新葉集紹運録南朝紹運圖

懐邦親王　一本南朝紹運圖後二条院皇孫式部
　　卿邦世親王子天野信景説為後画画
　　皇子

尊融禪師　南朝紹運圖為後画画皇子
　　保安寺宮春蘭和尚

石見宮　正平七五十一於八幡山被討
　　豫章記

稙田宮　後愚昧記云天授三八十一故宮僧正御
　　子稙田宮於鎮西被討

高田宮　應永初起兵於東國聽而自害
　　陸奥河沼郡牛澤組塔寺澤八幡宮長帳

右南朝系圖取捨花咲松南山巡狩録残櫻記等之
説而作之

○第十三宰相大将

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

○源氏物語葵の巻 湖月抄本に毎年春宮をそいと
第一頁 おうおもひきこえ給ふ
しるめさうおもひ知こえ給ふ
きこえりけるかさまに
れしとおぼせることやう
もらの前坊の姫宮にたてまつ
時の儀式もいとたのもしげ
○河海抄葵の条に源氏参議大将事天平神護元年改
授刀衛為近衛府平城天皇大同二年四月廿二日
改近衛大将藤原朝臣内麻呂大納言兼権男為左

近衛大将改中衛大将 田村麻呂 従三位 薗田
九男為右近衛大将

参議兼大将例

右大臣不比等男藤原房前中衛大将
左大臣武智九男同豊成中衛大将
右衛士府生国勝男吉備真吉備中衛大将
参議乙九男藤原是公同上
右大臣清九男大中臣諸魚近衛大将
右大臣是公男藤原雄友中衛大将
大納言真楯男同内麿近衛大将

正四位下大原男文屋綿麿左近衛大将
右大臣内九男藤原冬嗣左近衛大将
右大臣継縄男同乙叡(ママ)中衛大将
兵部卿綱継男藤原吉野左近衛大将
贈太政大臣清友男橘氏公右近衛大将
右大臣良相男藤原常行右近衛大将
右大臣師輔男同伊尹左近衛大将
○花鳥餘情(巻)のに源氏の君我大将といふを此巻
よりはじめて大将と巻々に見えて巻議より左大臣
帯する職と源氏は此時巻議大将ありてなり

○源氏物語若菜の上巻(第九)朔旦にかぶうちきを
納言なども形ばかりあるうちにうしひとつありて
や宰相より大納言にうつりけんといふ

○栄花物語布引滝の巻(巻廿九)のに大将まもと
のゝ三位中将宰相より形ばかりにて大納言にうつり
給ひつゝ云々(按兼保四年四月九日藤師通参
議ひつゝ云々(按兼保四年四月九日藤師通参
大将ゝ形ばかりにて大納言にうつり給ひつゝ云々

○公卿補任白河院兼保四年(一月十七日改元兼暦)北条より参
議三位藤師通三月廿七日任正中将四月九日
兼左近衛大将十二月十三日任権中納言十六云
々(按に補任中此外参
大将の所見なし)

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　　ガラス使用

○官職秘抄上巻参議此条に兼ㇾ大将ㇾ例氏公常行二條
關白内大臣云々按に氏公ハ右大臣橘氏公ㇾ常
關白内大臣ハ後二條關白師通公ㇾ兼行ハ藤冬嗣公孫良相公男なり
暦元三廿七任ㇾ参議同四月九兼ㇾ左大将ㇾ
與清按ㇾ宰相大将とも参議大将とも通もし書
ㇾ宰相ハ参議の別名なれど也寛平本職原抄
首書奥書ㇾ寛平五年甲申五月上旬之條以ㇾ権大
外記隼人正、家、奉、書寫讀合了とあり条ㇾ許
ふ物學せしうゐ渡邊轂ぬ云々
しの家ㇾ秘伝せり云々
○
呼ㇾ其人ㇾ則曰ㇾ宰相殿ㇾ也有ㇾ八人而紛則加ㇾ氏呼ㇾ□宰
相藤宰相也云々首書、卽本に書ㇾ位署ㇾ時、参議也呼ㇾ
○
名ㇾ時、宰相也書、時或、源参議菅参議呼ㇾ名ㇾ之時、藤宰

相平宰相也人多故ㇾ以ㇾ氏ㇾ別ㇾ云々と尤も漢土乃宰
相ハ上相の事ㇾ して其義は高承が事物紀原四の巻
にくはし本朝宰相の名始て續日本紀十の巻神亀五年三
月丁未ㇾ出されど公卿ㇾ定めいつよりそれ
の段
ㇾ かぎりなきは参議の別名ㇾ称ㇾ して参議
より後あらざし参議ハ職員令に大納言四人掌ㇾ
ㇾ参議ㇾ庶事ㇾ義解に謂ㇾ與ㇾ右大臣以上共ㇾ参議ㇾ天下之
庶事ㇾ云々續日本紀二の巻大宝二年に勅ㇾ従三位
大伴宿祢安麻呂正四位下栗田朝臣真人従四位
上高向朝臣麻呂従四位下乙ㇾ朝臣古麻呂小野

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　　ガラス使用

朝臣毛人令参議朝政云々あど何ぞ定むる官
名ともなえど公卿補任には大寶二年以後代々参
議の官位ゆゑに記されざるべき後の書
續の条ゆゑに信がたし補任（天亀三年十一月十
七日改為養老元年）
に霊亀三年十月廿日従四位下藤朝臣房前任参
議云々續紀（十一の巻天平三年八月丁亥の条）に依諸司擧擢式部
卿従三位藤原朝臣宇合（ウマカヒ）民部卿従三位多治比真
人縣守（アガタモリ）兵部卿従三位藤原朝臣麻呂大藏卿正四
位上鈴鹿王左大辨正四位下葛城王右大辨正四
位下大伴宿祢道足（ミチタリ）六人並為参議云々あど何ぞ

を実任の始とやもぐさき権参議准参議非参
議あり権参議は續紀（十の巻天平元年に以太宰
大貳正四位上多治比真人縣守左大辨正四位上
石川朝臣石足弾正尹従四位下大伴宿祢道足（権
為参議云々補任（神亀六年八月五日改為天平聖暦元年）に神亀六年
二月日多治比真人縣守任権三木三月二日叙従
三位兼太宰大貳云々また天平三年八月日従三
位藤原朝臣麻呂任権参議云々官職秘抄（上巻）参議
の条に権参議例天平元年云々（此に元年とあるは三年の誤しあど
其の准参議を補任（平城天皇の条）に大同元年閏六月三

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　　ガラス使用

日従四位吉備朝臣泉任准参議云々官職秘抄上巻
参議九条に准参議例大同元年云々と有り非参
議ハ一概よめいがさしそふ
就てゝふとの二種有之三位以上の人乃官あく
て位むうり那をゝふ一ありう家初より官ま任
ぜだ位むうり進たる亡三位以上と官をむ辞し
て位むかりにありうる散三位以上と共に非
参木と称す又参木の官ま任じたる人の数任し
して前官にても有るを四位にても非参議の例也
あれらハ位ま就てゝふ非三木まて職原抄近衛
大将篇乃首書に二三位以上之人無官職者都曰
非参議但前宰相雖四位又是非参議之列也云々
太宰大貳の篇に所謂非参議四位是也といひた
るまゝ明也又位を四位まても参木に任ずづき
人のいまざ参木に任ぜだて有ふるどをゝふ
二ありう源氏物語帚木の巻ぢ
欠まりも非三木ハ三四位どもの世のおねえ
ちをしあてもとハ孫ざしいやしからぬ云
云ことは三木已上を公卿としそれま對て三木
乃家族のものを非三木の三四位といふ

心若葉の上巻ゟも非参木の四位とあり是ハ同書、竹川の巻ゟ本ゟ脱落右大弁ゟそれ非参木ゟ任ずつき人のいまゞ任ぎずなどをいふ歟し蒜の葉の巻ゟも非参木のみどをいふ歟とをもふこゝろをいふ歟ハ原ゟ藏人所の篇ゟ非参木、大弁と有ゟも同義ニ試にいまゞ左右、大弁左右、中将左右、衛門督左右、兵衛督藏人頭、年労有る左中弁式部大輔ゟ侍従ゟ朝文粋六の巻正四位下式部大輔菅原文時の請状ゟ非参議之四位、中文時已ゟ為第一也とみえたり

あどゟ脱非参木の四位也これらハ官ゟ就ていふ非参木ゟ参議ハゟ皇朝政ゟ参議ニ

議ゟしも称ゟその朝政ゟ與ゟぬハ非参議ニまゟ参議ゟ官ゟ任ぜずつき人のいまゞ任ぜざるほど成ハ位階のゝ進たるをあどゟも非参議ゟて公卿補任ゟ従三位長屋王和銅二年十一月一日非参議ニゝ従三位藤原朝臣武知麻呂養老二年非参議ニゝ従三位藤原朝臣宇合神亀三年正月七日非参議ニゝ従三位藤原朝臣弟真天平四年正月非参議ニゝあどおねり参議権参議非参議を並置れし事ゟ見ゆ寶積類書十二の巻に圓城寺殿類聚抄ニ非参議弄花ニ云ゝ不仕参議ニ三位之人

又公卿前官共称非参議畢竟不預大政官之政務人之事也花鳥餘情云不任参議三位四位称非参議とも有りかく官位よ就て非三木の称有るを別すべし参議の字面漢書公孫弘傳よ與参謀議云と毋將隆傳よ與参謀議云と匡衡傳に與参事議云とあどみえたもどし直にいうふ後漢書賈復傳よ與公卿参議國家大事云と班固傳下に為中護軍與参議云と董均傳よ轅令ノ鈞参議云と晋書孝武定王皇后傳よ臣等参議云と周書竇熾傳よ常與参議云とあどに有るを出処とれ又参議を八座といつるも別名ふ職原抄上巻参議の条に八座者異朝八座其職各別也本朝聖武天皇天平三年置参議大同御宇嚴観察使能参議置五畿七道観察使合八人弘仁御宇嚴観察使皆為参議云と八人自此而始依之有八座之號云と百寮訓要抄に参議云云是もむしより八人當時も子細なし八座と云也云と故實拾要十二の巻参議の条に當官ハ座の次第ハ人ハ畳ニ列座ス故ニ八座ノ臣ト云是非唐名八人ノ臣ト称スル云と文徳實録八の巻齊衡三年四月庚寅の条に文粋六の巻菅三品請従三位状に伏恨不登八座云と本朝文粋

撿故實儒者之式部大輔以十年已下勞必拜八座
之例云々あど又曰漢土の八座ハ晋書職官志ふ
後漢光武以三公曹主歲盡考課諸州郡事改常侍
曹為吏部曹主選擧祠祀事民曹主繕脩功作鹽池
園苑事客曹主護駕羌胡朝賀事二千石曹主辭訟
事中都官曹主水火盜賊事合為六曹拜令僕二人
謂之八座尚書雖有曹名不以為號靈帝以侍中梁
鵠為選部尚書於此始見曹名及魏改選部為吏部
主選部事又有左民客曹五兵度支凡五曹尚書二
僕射一令為八座云々唐六典一の巻尚書令の条に後漢以

尚書令僕射及六曹尚書為八座云々令則以二亟
相六尚書為八座云々杜氏通典廿二の巻歷代尚書八座附の条
に八座後漢以六曹尚書拜令僕二人謂之八座魏
以五曹尚書二僕射一令為八座宋齊八座與魏同
晋梁陳不言階以六尚書左右僕射及令為八座大
唐與階同云々文獻通考五十二の巻職官考說亦同此外不見如右
うなど本朝の八座と異し又相公といふも参議
の異名ゝいはゝへ善相公藤相公澄相公菅相公
野相公江相公己上本朝文粹所見あどきこえ故實拾要二十
の巻参議の条に相公ト云モ参議ノ非ス唐名ニ」といつりこ

れも漢土にても丞相を尊称せるし文選（廿七の巻行旅下王仲宣ら従軍詩よ相公征（ス）関右（一注よ善カ曰ク曹操為（ルガ）二丞相一故二曰フ二相公一ト也と仍ちて知つしさて参議の和名ハ和名抄（五の巻職官部）よ奈保万豆利古止比止（ホマツリコトヒト）とゝえて北山抄（十巻）紙職原抄（上）聞書寶石類書（三の巻）などもトマウチギミ或ハマジハリハカルなどよ見えて誤ゝ高大夫賓無が百寮倭歌に参議をハよゝかけるなどハ只ものゝあつかひをそれとよめるとよ見えたり後拾遺集序（廿巻）よやそのゝち

さにそ好りてゝゝ藻塩草（十五の巻人倫異名部）に仁宰相ゆゝしきの注りさゝ異名多類（二の巻人倫部）よ八座（ヤクラ）職（ツカサ）歌云々綺語（抄中巻官位部）を按ずるに仁宰相第十四いまちどりの

ハ小きを心よ長洲の渡名ある渡よ

○兼輔卿集よ女のうらみよきゝてにハいと千多あれうねふたなものあごたの渡のおうごもあゝ哉ん女うらしハ思ふをあごさの渡のいと多あるをもあさりけるを松屋氏負徳云歌林撲撤（廿一の巻）岩手多ハチトリノ名也云

云無落日共說ひぐらし黄之胡王自掌のや提中納言
集ともいわもどりと古ともを岩とふ假名たがへ
り淡路の多浦多多河多島あどいその住所より
てあるを此あれど岩とをいひてふをもり
きこえたり拾遺ふ驚きさまぐよりい
つふ名かもづし日本紀雄略紀前紀より駿惑イ禾ケ
アホテハ云く安閑紀元年より驚駭イワケテ云く皇
極紀二年ま喘息イ禾ケテ云く驚きさまと
ぐの意の字ぬりもけと訓とり釈日本紀さて豹
りてを物語書ま多雅をいるもけあきとつるも

物ま於ときみすきましの名し源氏物語紅葉
賀ま多多げにいもけてきことやふふちどさぶら
ふ人ともきこえあつり云く夕霧ま多いとい
ともつうき即公おきてのふりけるふく御
息にやめまいもけとる伊勢ま多びあつぶと
も云く夢にいもけるひぶれちそびちどのけ
もひの花ま多ぶ云く菜花物語ふぶやく藤壺ま
いもけとうをおくふく云くあどもも幼くもあき
なるさまなりつり契冲阿闍梨云源注拾遺二
といつるふいもけあきもふ

きハ付てる字まてお(ヲ)けあきれ(レ)ま(マ)の字(ジ)
ゐ(ヰ)まはあくめ(メ)あるつゝし云ふ谷川氏ハ清云(倭訓栞第三)
とけあるき幼稚を物まかくいつ
おあじおふおどろきやすき時あれ(レ)ま(マ)警(イマシ)めいと
とけとつふ義ま(マ)面(オモ)てりいとけてとも仮(カリ)ふ
もあきふ助の詞あるつゞし云ふ師説(假字指要)
伊(イ)ハ宇(ウ)比(ヒ)の約(ツヾ)まて稚(ワケ)の義和氣(ワケ)ハ若(ワカ)の義まてら
ひとうきとつふ詞あるん兒(ワラハ)駭(オドロ)の字(ジ)いとけ
と渡(ワタ)るもをさなきふ物まおどろきやすきを
のあをふおどろくを我(ワレ)いとけとつあまやとも

おもるされとハ詞さだうまふいひぐさし狂(タハ)
言(ゴト)ら證(アカシ)をひる我(ワレ)まつぐしやまる記(シル)も喘息(イキヅ)の字
をイワケと訓(ヨ)るふおどろく我イワケとつよ
り轉(ウツ)じたる訓とるあイワケハ息滴(イキワク)の義兒(ワラハ)イキ
をイとみいつるともワケとかよりし
いつるともも語(コト)おし喘息の字(ジ)ま(マ)兒(ワラハ)ら(ラ)ば(バ)ハ
語の本義あるつゞしさて物まおどろく時ふいき
づくひあともあくげ(ゲ)まるものゆ(ユ)ゑ驚(オトロ)くをま
もつひみをさかき人ふ如(ゴト)あるつまでいきぼ
ひあど(ド)あるつあねそをさるるともあるい

つるしろ奥清曰いとけあきと
録の宣命よ幼少ハの巻卅幼稚九の巻あごの字を
訓(ヨミ)よりされどされハイトケナキとも訓(ヨム)つべし
古今六帖三のよ卅あふをのおとよせたるあ
みの目よいとけあきまで云うりぬる夫木抄
雑十よ知家卅世の中いとけなきものおもぎ
らひそしぐかきハねこそおもふ事あどよ兄
りあ種の詞まそそる聖(アデ)法たんぬ空うんぬ是(コレ)を
おを見のとくていとそうる小駿千鳥(イワチトリ)の義ある
をもるべしいとはようとも面(アヒ)ひてものよもく驚き

さらぐよしの詞とき云ふ萬葉集七の小卅佐保
河(カハニ)辺小駿千鳥(チドリノ)夜三更(サヨフケテ)而(ソノコエ)音間(トケバ)者宿不難(イヨウラシナツニ)角と有
る小駿千鳥をアソブチドリノと訓(ヨム)る古訓うけ
がたし駿ハ説文よ馬疾歩也玉篇よ幸也詩小雅
注よ小疾曰駿(スウ)駿(シュン)かる凡疾速曰駿あと見え雄略紀
前紀よ駿ハシリテとも訓されハ雉のさ跡とる勧(エ)
のさはるあとよ和うくサバシルチドリとも
訓(ヨム)づく又イワケチドリとも訓(オドロキ)駭てさはしさるく義あるべ
夫木抄卅夏川のいそねをとりあつめ
夏二

なさでやふ世ゆゑなさんと歌よりて
岩根をとくるあちきなぶ岩もと
かとんことは通言ちれぞかくいひ重ねもれ
ミうて古歌よ例おなしは歌の意ふ岩根のかる
きをとくるいとおもふをでやる
すらんとよ先りいとおもふ詞をよ
せて女のかづときまとが如
うるし又清輔朝臣家集の水草隠橋といつる歌よ
てゐまとも等たづきも去らぬ
のたぶや沢のよう橋といつる歌なりいとみ

ばハ頭(ヨワケ)家のたぶうてもとおとも等のかう(ケカウ)あきさまれ
うをいふ先たぶとは等本のまぐりたうをいふ
詞うてばぶめぶくを曽丹集
山家集 扶桑 本抄夏三 ちどよ先りそふ去ぶ
ミのうをいふ去ぶとふ繁(シケ)き我いつうて去ぶ
ね散木ちどもおかじ法去ぶ
集 しふまつゐ重しは歌のミ言ハまとおの便(タヅキ)も去
らねぞり生(オヒ)去ぶりとれを
ぶの去ぶミの上をや橋まとふかつて落るぶきさ
れどたゐまうるいぬぶくおふよしをよせま

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

あがしとふまもれ〳〵るもゝづ
だといつをゆがて篠(シノ)よとうち
とよせこまてうとも実ゆさて
昌の歌の意ふ女なりとなる
ろまよ志るあやゝ〳〵意よ注意うつうい何ゆ名
ぞもうんの源とついもあるあ
れふそとの名を思ひて泣(なみ)ぞあるとしとよみ
うけ〳〵思たるし女のかく〳〵の意を表よの源と
つふれるようて抱おもひもち
ついふ〳〵あげかれ〳〵いより〳〵泣(なき)さるともおう

其の渡ハ日本紀履中紀五年ニ出(テ)於長渚崎(スノサキニ)令後陳(ムハラヒヲシ)云
云谷川氏士清云通紀十七の巻摂津國河邊郡長洲村ニ
拾遺集恋一よみ人志らずおもふ
仲のくふれるがとそそで神そみちぬるまゝ
恋五よみ人志らずかひわびぬかゝるもの
くさ〳〵いづもあづたの渡べきもん空穂嵯
峨院ふ川志ほそ〳〵をゝそ相模家集ニ川の
ひるうんのもりかひあくそ相
ちごたあづたるあゝふはのくふの
そうをしかるべき又川ばのくふれ

も知もつぐそも淵よあそ
家卿新撰六帖 門わら神の海とあ
なぐ〻淵の住もりせけ里動撰名所和歌抄出淵部
よ長洲濱摂津河辺郡云〻歌枕名寄十六の巻摂津國長洲濱
云〻類字名所和歌集三の巻よ長洲濱摂津河辺郡
渚河尻云〻陸西遊行叢抄三の巻長洲ハ神崎川
ノ西邊神崎ノ駅ノ南ヲイフ云〻摂津志ハの巻河
邊郡村里部よ東長洲中長洲西長洲屬二一邑一云〻
摂陽群談五の巻よ長洲濱川邊郡長洲村ニ屬ス云

云此外古歌も古書の所見もあまたあるよどふよ
うもわぶ引ぬべき章の濱ハ和名抄五の紀伊國
郡名よ名草奈久佐國府云〻日本紀神武紀六月
軍至二名草邑一則誅二名草戸畔一者ヲ云〻旧訓支紀同
巻よ紀伊名草姫為妻云〻日本紀四の巻同
名曽ガ妹名草姫ヲ為妻云〻續日本紀三の巻四の巻
巻卅の巻卅四の巻卅五の巻より後の史よ名草郡おなく只
日本後紀廿一の巻よ弘仁二年八月丁丑廢二紀伊國萩
原名草賀太三驛一以不レ要也云〻廿二の巻弘仁三
年四月丁未廢二紀伊國名草驛一更置二萩原驛一云〻延

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

喜式 式部ノ名草郡為神郡ニ云々萬葉集七ノ巻ノ
草山事面在来吾恋千重一重名草目名國後撰集
恋三 よそ人もとゞ敷きのふの名その浦ふ君もれ
やものいふひありときくほる夫木抄よみ人
もとゞ敷きのふの浦ふ見ひろふあよ
のめざしのおもかげ動撰集秋ハの部
同巻 同ふをもとゞしもふさ浦ふ名草山三井寺ふ云々紀伊名所圖
會五ノ巻 の海士郎部ふ名草山三井山の処名しるぐ
さの浦ふ名草山の西のやまとにをゝ云々豊臣日
千鳥ハ百鳥五百津鳥百千鳥小野つゝ多の鳥を
させる名あれど萬葉集ふ浦ふ多夕波千鳥あど
よめるハ一種の物ときこゆ和泉式部家集四ノ巻
詞書ふをちぢりれらぶひとつのたもとふ源平盛衰
記廿一ノ巻 青山琵琶の条ふをこの千ドリ河海ノ水邊ニ
ともゝりこふ貝原氏筑紫ノ千ドリ信ず
アリ類種アリ其形鶴鴿又鴨ニ似タリ大倭寺と
草十五

いつる物あるべくそい百千鳥もゝあるこの字
[illegible]
れるよ又雪のそくくてよき歌あるうるぐ
そしき多の歌い瓊々許根尊の濱津千鳥とまま
せたまふる段そこんとん神代紀下千鳥百千多のを
は未よいあ歌し

第十五哆嵯摩知尓の哥乃事与此哥の字大坂
山口がそんうも當麻

○日本紀十二の巻履中紀、天皇、御歌よ
布夜烏等謎烏源知度泊磨哆駄瑳破能流遷儒哆嵯
摩知烏能流紀、文よ妻仲皇子畏有事将殺太子密
興兵圍太子宮時平群木兎宿祢物部大前宿祢漢
直祖阿知使主三人啓於太子云々不信一云太子
酔以不起故三人扶太子令乗馬而逃之一云大前宿祢
太子而乗馬仲皇子不知太子不在而焚太子宮通夜火不滅太子到
河内國埴生坂而醒之顧望難波見火光而大驚急
馳之自大坂向倭至于飛鳥山遇少女於山口問之
曰此山有人乎對曰孰兵者多満山中宣廻自當摩
徑踰之太子於是以為聴少女言而得免難則歌之
曰云々古記事中巻履中記よ伊邪本和氣命云々到于
多遅比野而寤云々到於波迩賊坂望見難波宮其

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

火猶炳云々到幸大坂ノ山口之時遇一女人其女人
自之持兵人等多塞茲山自當岐麻道廻應越幸甫
天皇歌曰云々嶋清曰哆嚩摩訶
又ふ當摩徑と書しも直路あるべきしさいは
ふましふ常陸風土記ふ行方郡當麻郷古老曰倭
武天皇巡行過于此郷有佐伯名曰鳥日子縁其逆
命遣便路敦即幸屋形野之頓宮車駕所経之道狭
地深淺惑路之義謂之當麻俗云多斯とそえ事
記中景行記ふ倭建命云々到當藝野上之時詔者
吾心恒念自虚翔行然今吾足不得歩成當藝斯形

故號其地謂當藝也美濃國と
多藝郡とあるも同名
て舟の舳のの如あるふし舳
出雲國の多藝志之小濱も古事記上巻
ふの名あるべし當麻てふ地名もおなじ
さ多伎てふ地名神社の名あれども諸国ふおおあら
ハ曲道ふよるも瀑布ふよるも多岐麻の麻ハ稲
ハ其地を極免じてハ解がたし
日都麻佐ニ木津麻浦来ともの麻ふて地ふ廻る
るさほを云詞ふ浦箕浦廻あるつぐ直路をは先ぐ
意ハ大坂ふ遇る女女ふ道とつぐ直路をは先ぐ

して曲道を告よるよしも阿夜の夜は助辞鳥等謎鳥の鳥は角の如の如き鳥しまる条の如き鳥としてもきこと仁徳紀五十年云々と允恭紀十一歌よ余綾留等枳々弘云々萬葉集三の巻赤人宿祢歌よ衣借益矣云々六の巻ふ不所念来座君乎佐保川乃河蝦不令聞還都流香聞十五の巻よ伊敞姚等乃伊豆良等和禮乎等婆波云々あきしまの鳥は本の如しまる古事記上巻よ伊邪那美命先言阿那迩夜志愛袁登賣袁云々後伊邪那岐命言阿那迩夜志愛袁登賣袁云々素戔嗚尊御歌古事記上ふ曽能夜幣賀岐袁云々日本武尊の御火焼之老人歌古事記景行記熱田大神縁記ふ比迩迩波登袁加袁云々とふ余まかよつる袁ありて朋佐箇は坂の大きふよまる名まて諸国まお保し於佐加といふも朋を者そいつるのこそ小坂長坂あどいふ地名よ對へおもふべしあの即歌のは大和河内の堺まて二上山の北を越る道し本居氏宣曰古事記傳廿五の巻若櫻宮の段履中記ふ大坂山口と阿うは河内の方より上る口あり又孝徳天皇紀大坂磯長陵も河内石川郡まて此山

二上山の西面して此道ありまへと往来し大道なり今はさけうりの大石まであらで穴蟻越といひて葛下郡穴蟻村より河内国古市郡飛鳥村へ到りて古市あど拔経て難波の方へかよふ道にして其穴蟻村より並びて逢坂村と云あるは大坂あるべきあふと一ツふ唱へあやまり誤りて逢の字成せるあるべし云々さて此地の古書ども和名抄の葛木大和国葛上郡郷名に大坂と云し卯本に太坂と有るは誤なり神名式上巻大和国葛下郡大坂山口の神社云々大和

山口の方より上る山口多坂が東西の別有りさて和河内より上る山口多坂と名抄に葛上郡と云へる神名帳に葛下郡と名附る堺迄き名此方彼方に縁をありしと別処に崇神記古事記中にあるて別処に崇神記古事記中にあるは大坂神云々と應神記古事記に大坂道中云々と履中記古事記下に到大坂山口云云崇神紀日本紀五に武埴安彦興妻吾田媛謀反逆興師忽至各分道而夫従山城婦従大坂共入欲襲帝京云々依之倭迹々姫命云々箸撞陰而薨乃葬於大市故時人号其墓謂箸墓也是墓者日也人作夜也神作故運大坂山石而造自山至于墓人民相踵以手遞伝而運焉時人歌之曰云々飫肥佐伯玻瑠芸

ノボルイシムラタゴシニコサバコレガテ
廻頃例屢伊辞務邏塢多誤辞頃固佐麼固辞介氏
務介茂は歌の意ハ大坂ま縋登りて重立る磐石
群ありどうくおはくの人の手敢まして著墓ま
て取伊んまを遂ま越得んうとし介氏務ハ得
んし万葉ま石勝不得ありとの字をかてあくとよ
みて介氏ハ将勝将得ありとみよおれし著墓ハ
大和城上郡著中村まりて其間近のまん夫武
紀上日本紀ま初将軍吹負ま遣佐味君少麻呂
率数百人ま大坂ま云しまる聞近江軍ま自大坂道
而将軍引軍如西到當麻嶺ま云しまる将軍吹負既

定倭地便越大坂往難波ま云し同紀下日本紀ま八
年十一月ま云し初置関於竜田山大坂山仍難波築羅城ま云し續日本紀ま十五
大坂山沙治玉石之人也ま云し三代實録ま三
大和國従五位下大坂山口神正五位下ま云しまる
三の巻大和國大坂山口神遣使奉幣為風雨祈雪ま云
ま諸陵式延喜式ま大坂磯長陵ま云し新撰姓氏録
十七の巻ま大坂直ま云し孝徳帝在河内國石川郡ま云し
萬葉集十の巻歌ま大坂平吾越来者二上尓黄葉流
志具禮零作この二上は神名式上巻ま葛下郡葛木

二上神社と見え萬葉集二の巻七の
歌おほし葛城山のとし後まで音ニシヤラの
峰とよぶ源平盛衰記八の巻役行者事の条ニ二上
ノ嶽ともてニジヤウノタケとよみその外もの
にこもかれそめ黄葉流ハ紅葉の散をいふ哆峯
摩は和名抄六の大和葛下郡の郷名ニ當麻多以
云ト用明記古事記下ニ天皇要當麻之倉首比呂之女
飯女之子生御子當麻王云ト用明記日本紀一ニ元
年云ト葛城直磐村女廣子生一男一女曰麻呂子
皇子此當麻公之先也云ト天武記下日本紀ニ十
三年云ト當麻公賜姓真人云ト新撰姓氏録二の巻
ニ當麻真人云ト垂仁記日本紀六
有勇悍士曰當麻蹶速云ト天武記日本紀ニ到當
麻襲云ト神名式上延喜式九ニ大和國葛下郡當麻都
比古ノ社二座當麻山口ノ神社云ト三代實録二の巻ニ
奉授大和國從五位下當麻山口神正五位下ト
二の巻ニ遣使諸社奉神寶幣帛云ト從五位下守圖書
頭當麻真人清雄為當麻社使云ト今昔物語十旧本一
の巻第卅一語ニ大和ノ國葛木ノ下ノ郡ノ當麻ノ郷云
云拾芥抄下本巻ニ諸寺部ニ當麻尤和右大臣豊成公

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

始本願曼陀羅ヲ造リ本居氏宣長曰古事記傳卅八當麻路ハ河内の石川郡より大和の葛下北郡へ出る山路にて二上山の南を在て今の世な竹内越といふをあり云ヒ此外所見おほきをとさまてハおちさけをバ引如ク

第十六さいでゑやまと入乃

○源平盛衰記卅二の巻落書ニ赤さいで白ごふ入乃うれ記文云ヘ平家西国へ落下リ給ヒ後ハ世ノ騒ニ引レテ資財雑具東西ニ運ビ隠シ京白川ニモテ吟ラレハ引失者モ多ク深キ井ノ中ニ入レ穴ヲ堀テ埋メナドセシカバ打破損ジテ失シバカリ也サスガ残物モ有シヲカシ木曽五方余騎ヲ引率シテ上洛シテ武士京中ニ充満テ家々ニ乱入リ門ニハ白旗ヲ打立テ家主ヲ追出シ財寶ヲ追捕ス云ヒ狼藉不斜狩人倫ノ所為トモ不覚遙ニ劣タル源氏也トゾ沙汰シケル何者カ所為ニテカ有ケン院御所法住寺殿ノ四足ノ門ニ札ニ書テ立タリケリト云ヒ與清曰赤さいでハ赤き布の切ニて平氏の赤旗なにとゝもさいでハ師説村田春海

翁ヨ節用集（左部）ヨ割ㇱ布切也トあるなどハ割
また左支の支を音便ヨ以テ多倍を約テ豆
といひともといへれしかもあるどの豆まめじけものぶし榜ハ浦布の總名ヨ
て細く織るを錆和妙荒く織るを荒妙といへ
りこゝろの別處ヨいへぐし後撰集（秋下）詞ヨ
ヨ紅葉と色こきさいでと残れるハ女のもとにたちハ
〳〵てふ〳〵哀傷法皇の御ぶくありけるハヨ
ひいろのさいでヨかきてへりおくり侍けるを云
云拾草紙（春曙抄二ノ巻）ヨもし方ヨ
もちそびのでうどやうどあるそびでハ色あるどのさ
いでのおゝへさまでさうしのありようなりける
ハ足ハやうする云〳〵（春曙抄五ノ巻）
の殿ヨ取ものあでのをゝのさ（春曙抄巻）なまめかしきハ
さいをものゝやうにてさいでハ仰本作さい水戸本作ニ
てあどもめづ〳〵しきハなり
巻佐渡國ヨ有金傳ヨ神うつくしふくらばするる四の
さいでヨハ〳〵みするあをとゝやうせと云〳〵十三
の巻唐人ハ女羊ヨ生まする乳ふうせしむるも
音きあをきて白きさいでハ〳〵てかしらハはゝみ

てと云くあとおもふえん大蔵卿行宗集は保延五年
五月三日禁中にて俳ふ成通中納言ともまりつゝきるかいやうくのさいてら
うまりてそろもふのくときくふまをうともよもり此歌いもくをがこと又小笠原光清弓之記岡本記あてありこれ弓の弦輪よりく絹まて今ツルキヌといふおもしろ頭まくあり伊勢氏頁丈赤鳥随筆よいろ頭ふ纏ことも志ほ志ろ志あり志ほの志よおれくく為の字もし洛陽田楽記は後巻とあるハ田楽の後まきて行ふ人のるまて今俗ふ躍屋臺の助人あとゝ者そ

第十七うゝそうみ

○萬葉集四の大伴家持歌よゝ濱若見花咲難寺梅
孚殖而人之事重三念曽吾為類は歌夫木抄三の
春部三も載たり萬葉集巻八の丹生女王旋頭歌
高圓之秋野上乃蟹麥之花下壯香見人之掬
頭蟹麥之花同集十の柿本人麻呂集歌よ多去野邊
秋芽子未若露枯金待難おハ古今六帖雑思部
下句参うかれうゝ君まちかねつとも伊勢物
語四十八段ゝ音男いもうとのもとを知うしみれる
巻ひきけりをとをりてゝうたをねまみよ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

そゆる君なの人の法もんまを男山法を古
今六帖 春の草部新千載集一
の孔とせり家集ニハ又えびの曽根好忠家集ニハ
はゐこきの小笹が原や夏をまつ
うくひすみうも後拾遺 春
をよみ侍りし 従藤原義孝 卿
月のまつまでうくひすぞなく
和大和物語 三巻 忠岑うむめ
○ あんえんといひけるなにと
りをとこのもとよりかの

のぼのはとにをあんいつ
ぞやの一年前うくひすみ
しかうけとかんよみうる
さきむすめまんまる
御歌 これ重ケの深
うくひすをそはむ新古今集 春上 前中納言
雅孝 卿 もえ出ぬ雪間のき初かうくひ
かき地嶋のをれ夫木抄 春一 若菜部 従法大寺
左大臣 うくひすみ法花
をかとみのもおもをれ同抄 春二 若草

部よ従二位忠定卿〃君をし
らつゆみあ〳〵の秋夜の沖みどり 同抄 三春
駒部大館 有家〃かすみゆく雁のあと
らわりみ汀の波も春風に建保名所
百首の歌し同抄 五雑部よ中
まちさうつつきみよ〳〵春かすまき
すあくしけ歌い家集 万代集 上
り末抄一首 夢部よ大納言師教卿〃日くれ山を
ふもとのうつるみづの秋の夜の
ふかひのうつもりみいつる郭の志ら玉
ふかん 此外 摂川百首の歌あり 夫木抄 秋五 葛都二

余大皇大后宮摂津〃名寺あり坂山のふ
もとにうつもりみをそ 同抄 雑四
野部源教親朝臣〃さびつまうつもりし
志ぬれ志のを 同抄 雑七
雑浦部前中納言定家卿〃志ら白波此歌
つのうつもりあ〳〵の松風 新勅撰集 恋四 民部
い建保名所百首難波浦の歌を
て成範〃思ひまやもうつもり物等の秋を
もるまでかたんおとい玉葉集 春上 常盤井入道前
左大臣〃志ら波ふきうつもりあ志さいて

まあさ子ともいふ人麿やあき長方卿集ニ載
雅望をすゝらん井のわれ
第の草は乳夫木抄春早蕨部ニも其の右の歌ど
もなかうづ〳〵浜すゝ未若草ニまゝ草木の赤葉の
若きまいふよし旧説ども一ならずいさもと
万葉歌林樸樕指遺ヨウニハ赤ノ詞ナリウラワ
カミ藤ノウラハナド云ニ契沖阿闍梨ヶ代匠
記四の下巻ニうら赤上有ヶ赤若見ハ赤葉
などの若きなりいふ云〻又云源氏ヶ葉のう〻葉
うのうゝ雲と用云ニ谷川氏ヶ倭訓栞四巻の宇部

まうゝとうみ弱草ヨリ赤ノ葉赤ヤ
ヒトしきをいふし云〻中ニ万葉七の巻の詠河歌ヨ
波祢蘆今為妹手浦若三去来率去河之音之清左
同集十一の巻寄物陳思歌ヨ波祢蘆今為妹之浦若咲
見愠見著而四紐解放古今六帖ニ人部袖中抄
四の巻ノ夫木抄十雑部ヨハ詞ヲ誤テ載たり同集十四
の巻ノ未勘國譬喩歌ヨ〻乎佐乃柔流波奈多知波奈
乎比伎集知氐乎良無登須礼柠字良和可美許曽
蜻蛉日記中巻ヨかうらんにおしあゝりてとばら
りまぼりおそれバかるきしそよの中ヨそよ〳〵

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

まふ丁壮香見異本には下壮香見あとまそうまふ下壮香見とらぶ〳〵そ
もウラといつも表はさし〳〵もけれと下いて
若〳〵き息を底若さまそういつもしされい葉末
まも限らぐ底よ若き息を含たるおもふ詞し
け里

第十八答花屋代弘賢之問

○大あら〳〵き万葉三よ大皇之命大荒城乃時尓波不
有跡雲隠座この荒城ハ荒籬の略語まそ殯をい
つと云説さもあらぐし同七よ如是為而也尚
哉将充三雪零大荒木野之小竹尓不有九二集盛
集よ〳〵君が代我まら〳〵もあら〳〵大あら〳〵きのさ
のさうえ我そうが花のら〳〵さ曽卅集よ〳〵おなあ
らきれ小笹が葉や戸を洗ともさら〳〵菊いう〳〵
うあしもも大木抄雑四よ大荒木野よ〳〵大あら〳〵きれとは
此の野のすゝきを云そそゆけぞ神名帳の大和宇智
郡荒木神社あう所あらぐし古今雑上におは
あら〳〵きの杜の下草おのあをぶ卿もいつを見べか

ふくもめし後拾雑二忠岑
等とやありけん
き岡崎雑春躬恒
乃社のもみぢ
帖二
社のもとも
ぢのうへとぞ

思ひとくべし又曽丹集よりよそへおもふ
られ詞もあるをもてそれのつくづくあるをみ
里は多夫木抄雑七まきの二の句おなじ紀氏
とかりさてはゝ荒木(アラキ)の本間(マヽ)とつゞけし序ならて駒といふん料ゝ添(ソヘ)たるもし
因ゝ云ゝ右ゝ曽丹集十二月中の条れ歌ゝ
まきひしきその松の風と云詞二つゝ
りてなべらしあともいもれ
まづ歌ゝと云詞ゝ歌ゝの歌間の義といもれし
ハ頼(カタノ)しきゝたゝ歌ゝのるゝもいふ

ゝ三更とゝたゝ(七の巻ハの巻九の巻ナの巻)ヨハともヨナカともヨクダチともよゝり古今ゝ雑下ゝ
風安(ヤス)みおきふしら浪ゝ山ゝ歌ゝや君がひとりこゆらん左注ゝ歌ゝをかきあつめつゝとゝ古今ゝ帖五ゝ巻のをれたゝゝそゝあき立の松ゝ歌ゝるゝまでゝ
のこゝ姫千載ゝ寂蓮ゝ風ゝれ入(イリ)てゝ山のもいつるゝ
ハゝれ松(マツ)源のるゝまて曽丹の歌ゝのゝ
いつるも歌ゝみゝきゝて風義(サマタケ)もわれ妨

○ゐ〜ゐ志ばゐ猶九ゐま集に〳〵志ゐどり猶名のゐ〜ゐ寺山ゐゐん〳〵ゐ寺ゐまりて思ふにゐ〜ゐ志ゐ奴ゐ〜ゐけの本も葉ゐき栄ゐ水中ゐ渓(ヂ)ゐゐされば志ゐゐ志ゐ葉のあるまゐひゐ〜ゐ志ゐ葉ゐき枝のさま我いつるゐ〜ゐ節(フシ)まて葉のちりし後ゐ木節(キノフシ)のあゐゐゐゐゐまりいつゐゐ和名抄(ワミヤウセウ)木部ゐ四聲字苑(シセイジエン)云節(フシ)草木擁腫処(ヨウシユトコロ)也和名布之(フシ)今按(アン)竹(タケ)者(ハ)竹節也従(ヨリ)草(クサ)者(ハ)草木節(フシ)見(ケン)王篇(オウヘン)とあり神代紀ゐ蒼柴籬(アヲフシガキ)といつゐゐ生栄籬(アヲフシガキ)りて今の世ゐいふ生垣(イケガキ)しをも葉(ハ)ゐき垣ありさまなどゐゐし垣(ガキ)といひ葉(ハ)あるをりゐ青栄垣(アヲフシガキ)といつゐりとその後世しば垣(ガキ)といふ葉のある枝もてかこゐつゐしゐゐ志ゐとゐつゐも葉のあるゐき栄ある枝をそへつゐ重言(カサネイヒ)ゐや商可考

○ゐゐゐゐゐゐゐとゐふ詞ゐ門渡(トワタ)ゐゐつゐると飛渡(トビワタ)りゐゐゐゐゐゐゐ

○けこのみともり散本集よりれるけごの
ともりかげそひてさやの田のまもとりもゆく
まぢ坂よりうれつゝ小酒宴の席にて盃の廻流
もし鳥しけごのともりいと食篭の酒盛にてけ
ごふきと強飯を笥よりうつる松浦よ比女飯も
る探比若りもいひ及ばぜ伊勢物語よりけご
のうつわものとをゝ小酒をいつう飯椀ま酒
を盛るる我あまき吾酔ふる鳥しさや田小蓬江
田佐益郡の田しこい田夫ゝ酒宴の席にて飯椀
ともあるま酒を吾ひ苗もとゝもぬまぞふま

○第十九番於盤瀬醒ゝ問
○足袋ゝゝ小宗五大草子上巻ま足袋の事附ゝ
小沙免ゝゝいでふえもぎゝもぐ小沙免の時ま必
沙足袋ゝ一足次ゝ又入及同開小沙免の沙免
あくまもぎる人の内家も主人の沙免ゝもぐもぐ
ゝゝいつぎる平緒の皮ふ足ゝ小沙免ゝもぐ角出
緒の時小ふべ皮ゝもぐべゝゝし云ゝ和名抄履襪部
木草皮履唐令云諸蕃履並烏色皮重皮底履草皮
庭玉ゝ和名与履同令按野人以鹿皮為半靴名曰

多眞(タビト)冝用此單(タビ)皮二字一字ニ一シテ一ニ一ニ一ニ

○馬鹿着々ことといふ語太平記十六本間孫四郎遠矢の条に如何ナル推参ノ馬鹿者ニカアリケン云々同書廿三土岐頼遠参合御幸致狼藉事に如何ナル馬鹿着ゾ一々ニ奴原慕目負セテクレヨト割り云々あと元弟用集にも戴て破家とも書たるハいづれも借字にて馬鹿の字も泥て趙高ぶ故事ふ引あてゝ説ハいとひがごとなり馬鹿ハ頬計の通音まて漢氏明名湖月抄四ノ十三丁ニ

○ざる物いつるふりてぼけをひるふ日ひとりいをれゝねぐらし狗ふほうにおきおてばのやくつもあらんとも

しもりてあふぎみるうとをいひけゝあどもさる輩ゐに遑なし

○天守城の天守ハ近江安土城より起まるらしひづるし細川両家記上巻に摂津國伊丹城の天守云々勝切しる元弟州四家記にも安土城よりもまゝあるし製し

○擯馬本朝文粋十三北卷大江匡衡北野天神供御幣并種々物文ニ色紙擯馬三足云々此文朝野群載二の巻にも載す法華験記下巻紀伊國美奈倍

道祖神の条ニ沙門怙念巡リ見樹ノ下ニ有リ道祖神像朽
故遥多年歳雖有男形無有女形前有板繪馬前足
破損沙門見テ繪馬足損以テ糸継補置本所畢ト云ト
舊本今昔物語十三の巻第卅四語ニ道祖神ノ形
チ造リタル有リ其形旧朽テ多ノ年ヲ経タリト
見エ男ノ形ノミ有テ女ノ形ハ失シ前ニ板ニ書
タル繪馬有リ足ノ折破レタリ道公是ヲ見テ疾
ハハ此道祖ノ去ケル也ケリト思フニ弥ヨ奇異
ニ思テ其繪馬ノ足ノ折ノ破タルヲ糸ヲ以テ綴
テ本ノ如ク置ツト云ヘリ此説元亨釋書九の巻道
公傳ニも見エ宣胤卿記永正十七年十一月九日
の条ニ明日多武峰社遷宮ニ関白御使衛門佐村宣
溯ル云々宣秀相伴下ル繪馬二枚進ズ云々と有リ枚
挙ニ遑アラズ続日本紀神護景雲三年二月乙卯の
条ニ伊勢太神宮の馬形ニ疋雄略九年紀新撰姓
氏録左京皇別下日本紀竟宴歌ありし誉田陵の
土馬もありて生馬ノ代ニ土馬木馬繪馬ありと
りしをいとまゆくゆりれどもいと太平記廿九阿
保秋山河原軍の条ニ其比霊仏霊社ノ御手向扇
團扇ノバサラ繪ニモ阿保秋山が河原軍トテ書

七又人ハナシ云ヽといふる実社の御手向も繪馬のるもそそい必馬ゟ限ゟ他形(アラヌ)の繪(エマ)をもてなをもるをも繪馬とふよぶるし神社啓蒙或問南嶺遺稿一の巻草廬漫筆神道名目類聚抄倭訓栞あどゟも繪馬のるもの南嶺遺稿ゟ園記といふものを引て建暦年中伊豆の三島の社へ八幡太郎義家奥州征伐の時奉納ありしとふらけがらし園記即陸奥軍の図ありといふ是偽造の書名ゟべしかといふ書ゟも虎、鄭還が古博異ゟ王昌齢馬當山謁廟乃命使資酒脯紙馬献于大王ゟ井鉛録ゟ呉泰伯祠在閶門之東呉春秋市人相率牲醴多善馬深奥美女以献之ゟあど有

○

六十六部回國の誌聖新撰和漢合圖兼平二年の段ゟ頼朝房納法花於大社六十六部始云ゝ桂川地蔵記上巻ゟ或有六十六部回國之誌聖負笈云ゝ奇異雑談集一の巻人の面ゟ目鼻あくして口頂の上ゟありてもの絞ゟ多ゟ衆に津のあれ聖道一人坊藤九世戸さんは居所みさゝりて数日逗留の時かうしていつもゝ津のあゟ一人の聖至ゟ日本六十六ヶ國を修

行すること有るごとに十日廿日逗留してその國中の名所旧跡大社験仏尊ふ有る〻一覧をとげてめぐる也云々妙法寺記ト彌勒二年丁卯云々六十六部ノ写経供養云々あど尺えん塩尻五の巻ニも六十六部廻国順礼のすたり尚可考

○本うら葉ニ猿俗語ニ便あり〻ありとある故ト猿のやうといふを源平盛衰記廿四の巻十一丁ニ木ヲ離レタル猿ノ迎ヤ僧セヨトテ云々と文選西都賦ニ猴狖失木云々あるふおとるもの

第二十巻椿仲輔之問

○比満沙伎理梁天武紀四年四月庚寅詔ふ四月朔以後九月三十日以前莫置比満沙伎理梁とあるハ三代實録類聚三代格あど元慶六年六月三日の官符ニ妻流伐禁らるしふ如く河中大小乃魚虫をとらざる比満を水戸本の書紀ニ釋日本紀ニあど通音あるふりもて比満を作りたるまで通證ニも比満沙伎理者遮隙之義也荀子註石絶水為梁所以取魚也捜神後記

所謂鱶斷ㇾ赤此意、唐書咸亨中禁作ㇾ簟捕ㇾ魚といへるて其義知べし隙もさしと魚狹遮留る簗を制らるしと今河湖中ま多て魚海苔あど取料の竹木ぞヒバとつふも比滿比弥の名ま据ゐる事や曽丹集まえりさてとよびホのよし注したり

○都婆波山都婆波小都婆波、都婆波山都婆波山都婆波小都婆波あり都婆波式ありどよ都婆波山都婆波山都婆波小都婆波ハ空竈ぞそウツボペのウラ着きホとへをつよ直いしとる語とおぼゆそふハ竈都婆波亟短女杯

盌ありど並挙ぞるてもべし其形今ハ知べづらねど清濁酒枚納もし熨もする器と見ゆ竈ハいと深うとぬよいひ都婆波ま深く殊よホの空ありふいひ亟ハ栖有およいつるや短女杯と盌とハ酒を酌器しさて山都婆波と行る山ぞ大の字ぞ誤りて大都婆波あるべしそふ小都婆波よ対たる名ありべし儀式ぞ参河國の産物のよしぞの

○等呂須伎延喜大嘗會式造酒式ありどよ等呂須岐見え儀式ふ参河國等呂須伎造酒式もふ参河國等呂須岐と行

り あり 匠房口記、天仁元年ノ記事モ造酒司所供等
○ 呂須岐(ロスキ)ヲヽテ酒五升納器(ウツハ)ニ名義和名抄ニ参河
国設楽郡設楽(シタラ)和名之多良(シタラ)ト訓ス俗ニ多良ヲ取テ
シヲ省キタラヲトロ(トロ)ニ通ハシいひりと又白今
参遠両国の境志(シ)トロ(トロ)呂と云ふ處今の振草(ふりくさ)の邊(ほとり)まで造る
焼物をシトロ焼といふも呂須岐(ロスキ)の遺風(なごり)なるべ
し
○ 下総国豊田郡和名抄ニ下総国管十一葛餝(加止志加止)
千葉 波知(ハチ) 印幡(インバ) 匝瑳(ソウサ) 海上(宇奈加美) 香取(加止里) 埴生(波尓布) 相
馬(万佐) 守谷(毛利也) 猿島(万佐之) 結城(由宇岐) 豊田(止与太) と有り民部

式上ニも抄ニ延喜四年十二月十日改テ豊田郡ト為ス
岡田郡ヲ豊田郡と云ふ神名式上ニ下総国岡田
郡桑原神社といへるハ改ざる已前の名なるべ
し抄ニ拾芥抄下総国十一郡として豊田郡の下ニ
元岡田延喜廿年改豊田ト有ハ別ニ千田郡を
加へたり十一ハ十二の誤なるべ
○ 和名抄ニハ古本節用集ニ大管十二郡として
岡田を加へれバしさればこそ上古岡田郡といひし
後延喜年中(延喜式頭注抄ニも四年とし廿年とす)豊田と改名
鎌倉の末堺町の頃ニハ二郡ニ分て十二郡と

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

せうと申しまづしき吾妻鏡よまれ葛餅郡をかて葛西葛東とせうとしるもありとなり

第廿一ノ段

○阿佛尼十六夜日記長歌よみ澁谷の川の源鹿と申名のほぐきあるはそ川山の谷川よりいでうふいのちかみひとそつゝしみ水のみかうもせ象ともめでたいつゝふとぶくがよあごの亜るいをのどかうをたそそる毎まてよる多ふもあくくびそつる子猫鳥ふとそよるのつるあくく都のみかど云と陸まあごとる魚とを金光明最勝王経巻第十捨身

品よ大車王の第三子摩訶薩埵太子大慈悲心ゆ起し身を大竹林の餓虎よ投與し時其母国太夫人悲傷の多ゆ説る第ふ開時夫人迷問稍止頭髪蓬乱両手搥胸宛轉于地如魚處陸君生失子悲泣而言云ゝと足そそる故事まよれ多ありてしよ

七荘子外物篇よ有中道而呼者周顧視車轍中有鮒魚焉周問之曰鮒魚来子何為者邪對曰我東海之波臣也君豈有斗升之水而活我哉周曰諾我且南遊吳之王激西江之水而迎子可乎鮒魚忿然作色曰吾得斗升之水然活耳君乃言此曾不如早索

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　　ガラス使用

我ヵ花栖之肆云々と見ゑ

第廿二歌道は養子

○兼載雑談り俊成は乃嫡子ふ兵部卿家長といふ人ありしかど無器用ありしかば養子とせしかしその後定家といふ子ありて寂蓮は俗名中務少輔定長といひしかと行り養子ハ神代紀上よ天照大神の素盞烏尊は御子ハ養子ひしより始まりて続日本紀二の巻假寧令義解あるにそし續世継ハ重祚あるひとの巻まで皆ゝ養子と行り後漢書順帝紀五代史唐太祖家人傳その外かゝる書の所見もおほかり

第廿三つくり丘

○和泉國内神名帳ふ大鳥郡從四位上造岳社前あり桜ふ造丘（ツクリヲカ）ともと作道（ツクリミチ）築山（ツキヤマ）ともあるにて知ふ造（ツク）丘（ヲカ）の名ふ地名ふ取りしものあるべし

第廿四野井

○神名帳ふ石見國安濃郡野井神社行り野井ハ堂の中ある井のことあるべし武蔵野の井頭（井カシラ）池相撲野の大沼（オホヌマ）あるの類堀（ホリ）る井ふ限りて池

泥の敷ますも堅牢あるを堅牢
の活水あどおあ〳〵心こ

第廿五哉の字

○世ま古學者ぶら人かく
いみじきあやまりとおもふ哉の字なかく
ぬをも萬葉七ふ君為浮沼池菱採我涙袖沾在
哉同十一ふ公目見欲是二夜千歳如吾戀哉や
行々不相妹故久方天露霜沾在哉あどの加毛ハ
後の加奈ふおれじ又顕宗紀ふ美飲喫哉比云于
麼羅伊烏野羅甫屡柯俊ともある柯俊も直音ふて

加奈ふおれじけどこれらまりて哉の字か
うんことくらしかんだと知べし

第廿六壽の假名

○須の假名ふ壽の字ばかくハ古王經ふ樹有荊棘
宛如鋒又二鳥栖掌一名ふ無常鳥二名扱目鳥我汝
舊里化成鷓鴣徹示怪語鳴別都頓宜壽此鳥近吳語
我汝舊里化成烏鳥示怪語鳴阿和薩加此鳥近吳
奈とある哉ふてあとん安希鳥は杜鵑扱目鳥を
烏あり此經ハ圓融一條あどの御代ふ偽作せし
抽まゝ安祝和尚の抄物ふ日蓮坊の十王讃

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

歟抄暦應の比暮露々々草子源氏河海抄なども
も引用さるゝ古書にまさりけるも書名
など大同類聚方の假名まで壽の字我朝
さり

第廿七等身の佛

○等身の佛像ハ榮花物語更級日記發心今昔物語
吾妻鏡などその外古書ニおほく見ゆ人の
身丈ほどゝ佛像をつくりまつるをいふ
づゝ二中歷第三造佛歷寸法の条ニ頌曰丈
六尺又ハ五三尺一擇手半周尺三佛出世長八尺ニ
是表佛尊躰相故一倍謂之丈六也為衆生悟無常
其壽百歳五分減一分唯八十也一世為八尺者佛出
世時丈夫等身謂之半丈六也五尺者弘法傳漢土
時人長也近代謂之等身三尺者釋尊為闍王師羅長
者所現身也一尺六寸者准丈六也一擇者從肘
節異于其腕節也手半者其手之半分量也所謂人
在母胎時生于第廿七箇之七日人相皆備以手掩
面蹲踞而坐其時身長與母一擇手滿卅八箇之七
日已出生也因養育故成八尺五寸身云是依東
山隱上人說粗注之とあるに据ハ五尺佛等身の

佛像といふもし諭祇經、下巻金剛吉祥大成就品ふ復說畫像曼拏攞法、取淨素氎等自身量而圖畫之凡一切瑜伽中、像皆自坐等量畫之云々西域記、五の巻羯若鞠闍國の条に伽籃東起寶臺高百餘尺中有金佛像量等王身云々などみえ宋、何遠が春渚紀聞、五の巻撞鐘畫像作追薦朱子ふ邑者の尊身像を画て粥しる行ふそは世俗の常事なりし

第廿八更級日記

○菅原孝標朝臣女のさゝ〳〵ものの日記ハ地名乃ついでいとみぢかゝりそは女十三ふ成るまで

が上總、攸の任もてゝのぼるのことをれまりつぎ〳〵ものをもいと年つて注ふるしとゝゝろれバ志ふみあさりの體裁ふるべし卅の文ふ二三年四五年ふぐしたるをなおざいもあ〳〵ものつゞけれバゆがてはぶきたちとるばぎゆうさめきたゞきまふ打とゞ年月つゞ〳〵ものをふなり那どしてたゞもてゝあるをかゝうあるいとゝゝい私ふ波羅ふあ那る堺のきゝうおぼえて一月もいでゞゆみよゝゝものをとゝをぞたてをふ

桑楮集 本群書類従本橘千蔭が校本第が家蔵の古写本二種齋藤彦麿が宮内省蔵ぶ家の写本清水濱臣がもてる難波人若山滋古ぶ古卿本謄写(ウツシ)のものにて九種ともこの外ともに明阿弥の校本もおおいよ〳〵地名のこまかきそのおおしおおざなりにてなおざりにしたるもおおし又作者も右大将道綱母の姪(メイ)ともあるもおおし之おおく

おおくたづねきわめたるものとぞいえわたる

云〻あるをもて知るべくて後人のおぎなえるもおおしおぎなえるもおおしさるを刊本悉く安田靫彦氏古本にて地名のついでに改たるしるしありその古本にてとりけるもおおくて明阿弥の私意考なし説をおおくりあるべくもあらむきしめりそふ逸著聞集あどもは法師自つくりて古代欠きそうる奥書ばそへ世人はなはだとふとしうる例もあるべし余が見〻ふ元禄十七年の刊本扶

如ふみ作り如たあり

第廿九雞冠花

○多識編濕草類部ふ鶏冠和名今按土利左加久左俗称計伊土計云ゝ節用集計部草木門ふ雞頭花ケイトウゲ云ゝ節用集大全計集草木門ふ雞頭花鶏冠花也有掃帚扇面瑠珞等皆以其花形名之也云ゝ大和本草巻七花草類部ふ雞冠花々紅白黄三色アリ品多シ鮮紅ニメ大ニ重ナル者上品ナリ錦雞頭ト云南京ノ種花ヨシ好種ヲマキテモ変メ醜クナルアリレゲクウエテ花初テ開ク時アレキヲハ早ク抜去テ好花ヲ養フベシ三四月根ヨリ苗ヲ生ス六月ヨリ花サキ霜後ニ萎ム凡五箇月ノ間シボマズ百日紅山茶花海紅ナド花久シクアリトイヘド花落テカハルゝサキツヾク事久シキ也一花ノ如此久シキニ堪ル事鶏冠花ニシクハナシ其葉嫩キ時可食性アシカラズ草花譜曰有紫白同蕊者名二色雞冠實ヲマキテ遅ク生スルハ花ヨシ云ゝ本草啓蒙十一の巻濕草類上サンヲ小鶏冠ケイトウ一名洗手花群芳譜杜若薬圃同春一朶雲間情偶寄紫冠蘇氏韻輯波羅奢秘傳花鏡

俗ニケイトウト呼ブ雞頭ノ意ナルベシ然レ𪜈
花ハ雞ノ冠ニ似タリ雞頭ニハ似ズ唐山ニハオ
ニバスノ實ヲ雞頭ト云雞冠ニ數種アリ一種莖
短ク僅ニ五寸ニメ大ナル花ヲ開テ高麗ケイト
ウ又南京ケイトウチヤボケイトウト云漢名壽
星雞冠群芳譜 廣東雞冠同上 一種花ノ形圓ニメ未尖
レルヲヤリゲイトウ又スギナリケイトウト云
漢名掃雞冠花史左編 一種花ノ形チ扁大ナルヲトサ
カゲイトウ又ヒラゲイトウト云漢名扇面雞冠
群芳譜 此外ニモ種類甚多シ一種掃帚雞冠ノ形ニ
メ花ノ未及傍ニ細枝ヲ出シ其梢各小扇面ノ如
ナルモノ出テ多ク下垂スルヲミダレゲイトウ
又イヤウラクケイトウト云漢名瓔珞雞冠群芳譜
一種紅黄二色間リ開クモノヲカキワケゲイト
ウト云漢名二色雞冠花史左編同上 唐山ニハ
五色相間ルモノアリ五色雲間情偶寄トイフ云ヘ滑
稽雜詮十六の巻八月下ノ雞冠花春種をまく時
器ニ入く其器の形ヲ花形を發るといふ未考云
玄汝南圃史十の巻ノ雞冠花佛書名波羅奢花形
高三五尺葉似莧而光亦可食其花褊而舒長狀類

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4　ガラス使用

雞冠有紫白淺紅三色亦有紅白間者就中又有如
瓔珞者各種形狀不一滝花雜志云清明下子撒過
即用糞澆可免蓐啄子細黒藏於花中頃碎録云種
雞冠子立撒則株高坐撒則株低盛扇撒之則如團
扇散鬢撒之則成瓔珞如欲雙色各披半邊級麻縛
之然屢試不驗又有矮雞冠種自金陵來栽置階下
若侏儒然一名壽星雞冠此花秋與雁来江南様學錦
奇競秀極為園中點綴唯白雞冠子主治婦人淋症
最験云々秘傳花鏡五の巻に雞冠花一名波羅奢
隨在皆有三月生苗高者五六尺其矮種只三寸長
而花可大如盤有紅紫黄白豆緑五色又有妃央二
色者又紫白粉紅三色者皆宛如雞冠之狀扇面者
惟稍間一花最大層々巻出可愛若掃幕雞冠宜高
而多頭又若瓔珞花矢小而雜亂如篇又有壽星雞
冠以矮為貴者雞冠似花非花開最耐久経霜始萎
俱収子種撒下即糞澆可免蟲食云々食物本草十
八隰草類二本草綱目十五菜之十丁濕草類上廣群芳
譜五十二の巻花譜あどれも詩賦あともおゐ
かりやす海菜ゟ雞冠菜あり和名抄十七海菜部
ゟ揚氏漢語抄云雞冠菜土里佐加乃里(トリカノ)式文用鳥

坂苔ト云ヒ類聚名義抄ニモトリサカノリト見エ
以呂波字類抄ニノ巻止部殖物ノ条ニ鶏冠菜トサカノリ俗用鳥坂苔云ヒ節用集止部ニ雞冠海藻トツサカ云ヒ宜禁本草追加ニトツサカ又ムカデノリ云ヒ和歌食物本草上十三丁ウ止部ホトラさろとまんる歌三首あり大倭本草八四十一雞冠菜和品ニ順和名抄ニ出タリ其形雞冠ノ如シ食フべし紅色也附石ニ生ズ云ヒ嬉遊笑覧曰雞冠花は多識編ホトリサカグサともケイトゲともいふよし見えたり今のケイトウ花也雞冠菜ヲ海菜ヨセ今

○唐船交易の品ニ伊豆海邊ニおほし是トリサカノリともトサカノリともトツサカともいへり其主治禁忌ハ和歌食物本草ニみえたれバ知べし雞冠花ハ唐の羅鄭が詩ニ一枝濃艶對秋光露滴風搖向砌旁暁景乍看何處似謝家新染紫羅裳とよりして宋元明人の詩ニおほし和集九の巻十一ウ草木部ニ真浄ノ矮鶏冠の詩ありケイトウとよふこと又五祖及ビ卒庵ノ雞冠花の詩あり俳諧系衣の発句ニけいとうや八九月寒ク

鶏冠花の歌　万葉代の称ふにはひて物未も考
明ものれとさき花の色中隨時苑の圃中さうあ
花多ふいとよく生ものうち花もよりて八九
月の奇観し葉花苗實共ふ食て美味し牡丹芍薬
ともまさりて花寿の久きと艶色の深きこと世
に似るものあし私ふ花公と名づけうふ花王
に對し此君十八公あとの称をもおもひよりて
のそざし

第三十いしく

○北山殿行幸記八丁ふ冬の沙和物のおとゞのは

衣いしくれ出まうけもいる冬どもきこ
えしうどもそれまでへのぞきもまみうせわび
云し又十二ウ次ふ黄白いろ公卿しざいよちや
うぐんち又十五オそのしまち岡白いしく此等ま
まあでおふ云と又十九オはまうけのるどもはま
しいしくとけのめいしふ云し黒のまれ
日記十一オまを注まみうぬ志よしいしくまでも
とのへさせおふ云と雲井の春かすふいしく
のへ云と又十一ウいしくけんぞうの庭ふまる
りおふ云と御湯殿上記永禄五年
六の条ふ今日ふ御行

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

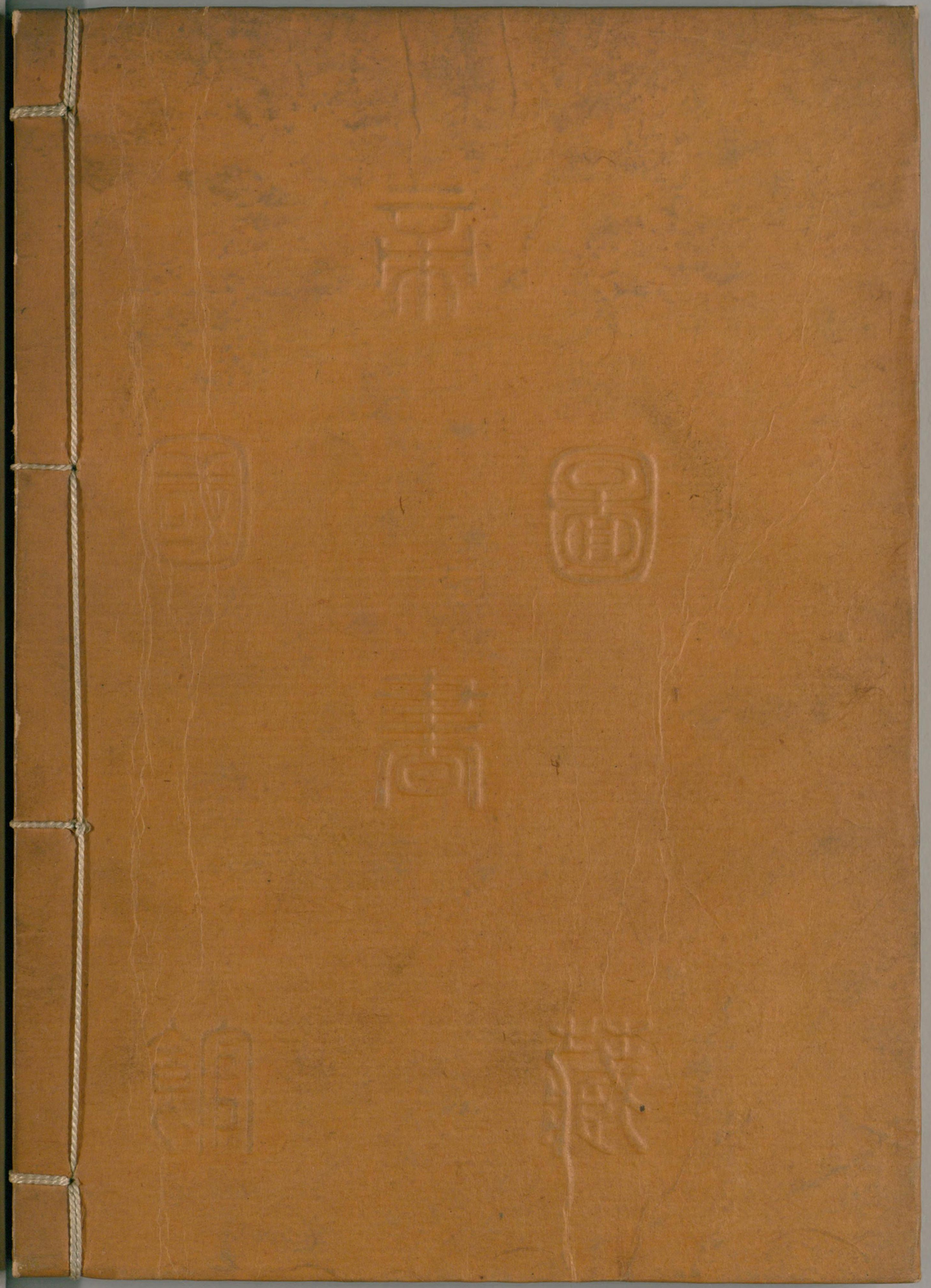
待ども何ら女中の沙汰なくてうち〳〵沙汰いもひありうち〳〵拵よいらん以次々との字音之西宮記正月部下五日叙位議の条此條大納言説云著議所時一大臣入自南以次大臣以下入自艮角但雖以次大臣執筆之時可入自南而納言執筆之時猶可入自艮云〻又著御前圓座之時以次大臣執筆者猶先著自座之後隨御氣色可著上座欤云〻二水記大永二正二淵酔の条ニ下臈貫首勧盃事云〻第一大臣之外取酌人無之欤已次之大臣只盃詩欤

云〻あどもある拵かうづへ合せて知べし

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用

835
26
4

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4

ガラス使用